

『ラブイデオロギーは突然に』

「登場人物」

| | |
|----------------|-----------------|
| 杉原美咲（すぎはらみさき） | 脚本家（43） |
| 藤井リカ（ふじいりか） | 原作者（43） |
| 櫻庭哲平（さくらばてつぺい） | 元テレビプロデューサー（45） |
| 雨宮桜子（あまみやさくらこ） | ヒロイン（17） |
| 矢吹和也（やぶきかずや） | ヒーロー（17） |
| 柴崎小雪（しばさきこゆき） | 和也の元カノ（17） |
| 岩瀬あかり（いわせあかり） | 桜子の友達（17） |
| 佐伯啓介（さえきけいすけ） | 塾講師（年齢不詳） |
| 雨宮秀俊（あまみやひでとし） | 桜子の父親（44） |

「背景」

2024年、20年前のテレビドラマ『あまこい』の主題歌を題材とした新作ドラマの放送が決まった。当時『あまこい』の脚本を担当していた杉原美咲は、YouTubeチャンネル「櫻庭哲平のクリエイティブ・ジャーニー」にゲスト出演し、『あまこい』の制作秘話を語る。

「注釈」

『あまこい』主題歌は、上演時に実際に使う音楽のタイトルを利用してよい。また、その主題歌に合わせて、新作ドラマのタイトルも変更して構わない。

桜子の台詞で太字になっており、台詞がすべて○で括られているものは、ケータイ小説におけるボエムを意味し、録音された音声が流れることを想定している。

「トリガーアラート」

本作品においては、以下の表現が含まれます。

- ・性暴力を想起させる描写
- ・DV描写

第一話

小さな雨音。

2004年7月7日、地方都市。井川市と小川町が川を挟んで隣接しており、井川市による小川町吸収合併への動きとその反対運動が激化し、七夕祭りの日に抗争へと発展する。

そんな中、小川町の男子高校生・矢吹和也はボロボロになりながら走っている。

和也　くそっ、なんでこんなことになったんだよ……！　なあ、桜子、もう一度お前に会えるかな。会いてえよ。

井川市議の娘・雨宮桜子もまた、人混みのなか、ぶつかりながら走っている。

桜子　ねえ、もう会えないのかな。これも私達の運命なのかな。和也あ……！

二人は前も見えないまま走り続け、井川市と小川町を繋ぐ川へと辿り着く。そして橋の上で互いの名前を呟きながら、背中合わせにぶつかる。二人、振り返って目が合う。その瞬間、火花が打ち上がる音がする。

和也　桜子……？　こんなところで何してるんだ。

桜子　和也……もう全てが嫌になったの。助けて……

和也　桜子、もう大丈夫だ。俺が守るから、一緒に逃げよう。

桜子と和也は手を取り合い、抗争の混乱を逃れて駆け落ちする。

桜子の声　連続テレビドラマ『あまこい』

二人の動きが止まり、元テレビプロデューサー・櫻庭哲平が舞台に現れる。陽気なジングルが流れ、櫻庭はタイトルコールをする。

櫻庭　（ポーズを取り）「櫻庭哲平のクリエイティブ・ジャーニー」

音楽。和也・桜子が去り、舞台が明るくなる。

櫻庭 このYouTubeチャンネルは、私、元テレビプロデューサーの櫻庭が、様々なゲストをお招きし、創作の旅路について深く掘り下げていくという番組なんですけども、本日はこの方、ドラマ脚本家の杉原美咲さんにお越しいただきました。

そこはYouTubeチャンネルのスタジオ。

杉原美咲が座っている。

美咲 杉原美咲です。どうぞよろしくおねがいたします。

櫻庭 よろしくおねがいたします。視聴者の皆さんのために改めてご紹介いたしますと、杉原美咲さんは23歳でテレビドラマ脚本大賞を受賞し、それをきっかけに脚本家デビュー。それから20年、数々のヒット作を手掛けてきたまさに平成ドラマのレジェンド・テレビドラマ脚本家ということなんですが、

美咲 (照れくさそうに) いやいや、全然、まだまだ修行中です。

櫻庭 本当にお久しぶり、ですよ。

美咲 はい。ほんと、ご無沙汰しております。

櫻庭 いつ以来でしたっけ、コロナ前じゃないですか？

美咲 そう、ですね。多分『春君』以来ですから。

櫻庭 あー、『春を知らない君へ』、あれ本当にいいドラマでしたよね。

美咲 もうあれは、キャストさんとスタッフさんに助けられましたよ。(櫻庭の方を向き)ほんと、もう、櫻庭さんのおかげです。

櫻庭 (遮って) いやいや、もうね、本ですよ。ドラマは結局ね、本。本がよかったんです。

美咲 ありがとうございます。

櫻庭 えっと、え、あれ2018年だから、6年前……？

美咲 えー、そんなに経つんですね。

櫻庭 あっという間だよ。

美咲 そうですね。

櫻庭 そして杉原さんもデビューから20年。

美咲 あっという間ですね。

櫻庭 そうですよ。そして、20年まへのデビュー作品でケータイ小説『あまこい』のドラマ脚本を手掛けられたということなんですけど、(前のめりになって) いま、ちよっと話題です、よね。ドラマ『あまこい』。

美咲 そうですね。ドラマ『あまこい』の主題歌「7月7日」からインスパイアされたドラマが、今度月9で始まるということで、丁度話題になってますよね。

櫻庭 「7月7日」凄く流行りましたよね。

美咲 そうですね。当時、かなり。

主題歌、流れる。

櫻庭 そうそう。これこれ。

美咲 （少し不満そうに）歌は、みんな知ってるんですよね。

櫻庭 （あまり気に留めず）そして、これから始まる月9ドラマ、タイトルは『7月7日』、もちろんこちらの主題歌にも、「7月7日」が使われているっていう

美咲 はい。（力を込めて）まあわたしはそのドラマには全然関わってないんですけども。そう、ですよ。

櫻庭 はい。

美咲 ……あれ？ なんかトゲあります？

美咲 え、ないですよ。全然ないです。

櫻庭 ほんとですか。

美咲 ですよ。

櫻庭 や、でもなんかさっきから……。

美咲 いや別にあの、あれですよ。わたしも、関わりたかったなーっていう。

櫻庭 ああ、

美咲 憧れじゃないですか、月9でオリジナル脚本を手掛けるっていうのは。

櫻庭 やっぱあるんですね、そういうのが。

美咲 ありますよ。ありました。観てましたからね、『あすなる白書』とか『ロンバケ』とか『ラブジェネ』とか。原点ですよ。

櫻庭 あ、じゃあ杉原さんはいつかは月9でオリジナル脚本を書くぞと意気込んで、この世界に入られたんですね。

美咲 まあ、そうなりますかね。

櫻庭 なるほど。しかし、デビュー作は、ケータイ小説『あまこい』の脚本。

美咲 まあ、まあまあ、はい。

櫻庭 （失笑）そっかあー。

美咲 え、ちょっとなんですか。（笑う）

櫻庭 いや、ぶっちゃけ、当時の杉原さんとして、ケータイ小説ってどうでした？

美咲 （困って）えー。

櫻庭 何かイメージですけど、こう、月9とはちがう面白いというか？

美咲 やー……そうですね、こう、なんていうか、そもそもケータイ小説って、いわゆる文学とか、エンタメとかに比べると、ちょっと位置づけが特殊だったっていうか、ちよつと、なんで笑ってるんですか

櫻庭 いや言葉選んでるなって思って……。

美咲 選びますよ。煽らないでくださいよ。怖いなー、もう。

櫻庭 いやいや、すみません、ちょっと僕、当時流行ってたケータイ小説とか、ドラマとか、あまり詳しくないんですよね。

美咲 確か当時はバラエティ担当されてたんでしたっけ？

櫻庭 そうなんです。がむしろにADやってて、全然チェックできてなくて。

美咲 そりゃそうですよ。

櫻庭 でもテレビを辞めてから時間もできたし、「今こそ、あのとき見逃した作品にちゃんと向き合いたい」って思うようになったんですよ。

美咲 なるほど。

櫻庭 ……（胸を張って）と、いうわけで今回は！

そんな僕と、当時観られなかった皆さんのために、「脚本家本人に作品を解説してもらおう」という、超贅沢な新企画！ やっちゃいます！

美咲 わたしが、……解説するってことですね。自分の作品を。

櫻庭 そうです。

美咲 本当に怖い企画ですね。でも、ちょっと楽しみにしてきました。

櫻庭 ありがとうございます。それではさっそく、お願いいたします！

美咲 はい……では、えーつと、僭越ながら、わたしのデビュー作『あまこい』について、ご紹介させていただきます。

音楽。

美咲 舞台は、とある地方都市、小川町と井川市。二つの町は天川（あまがわ）という川

を挟んで隣接しているんですが、元々仲が悪いんです。合併の話が持ち上がったから、小川町では反対運動が活発になり、トラブルが絶えません。そんな中、井川市に住む少女と、小川町に住む少年、この二人の物語となります。

唐突に音声が流れる。

桜子 （雨に濡れている私達の恋。でもきつと、織姫と彦星のように、また巡り合う運命なんだ。雨が降り続ける夜、桜子はあなたを探して、星空に願いを込める。）

櫻庭 （困惑して）……ん？

美咲 ケータイ小説は往々にして、ヒロインのポエムで進んでいきます。このポエムはいわゆる文学的なものではなく、直接的に気持ちを吐露するけれども、内容はあんまりない、みたいなのが特徴です。

櫻庭 なるほど。

桜子 （いつか雨上がりの空にかかった天の川を渡って、桜子はあなたに会いに行く。）

櫻庭 な、なるほどー。

美咲 さて、いまのポエムからも分かるように、この作品は、織姫、彦星、七夕、天の川、願い事、雨、みたいなものがモチーフとなっているわけですが、この、ひたすらにポエムを読むヒロインがこちら、雨宮桜子、17歳。井川市議の娘で地元の名門女子校・聖華女子学院に通う清純お嬢様。

桜子が現れる。いかにもお嬢様といった風貌。

桜子 パパ、桜子は今日も学校でたくさんのことを学びました。パパに少しでも誇りに思っていただけるよう、桜子も頑張ります。

美咲 そして小川町在住、底辺高校、北星学園高校に通う訳あり不良少年、矢吹和也。

和也が現れる。制服を着崩しており、いかにも不良といった風貌。

和也 いいんだよ。家に帰っても誰もいやしねえし、今夜は思いっきり騒ごうぜ。少しでもこのクソみたいな日常を忘れるためにさ。

美咲 このふたりのボーイミーツガールです。

櫻庭 「対照的な背景の二人」

小雪が現れる。小雪は短いスカートにルーズソックスを履いており、桜子とはバックグラウンドの異なる女子高校生であることがわかる。

小雪 和也！

和也 小雪っ……。

美咲 彼女は和也の元カノ、柴崎小雪。しかし和也は小雪を冷たく突き放します。

和也 （小雪から視線をそらし）お前の気持ちの浮き沈みに付き合うのはもう限界なんだ。

小雪 そんな……！

和也 俺たちにはもう未来がない。おまえも分かってるだろ？

小雪 和也の馬鹿！ でもあたし、絶対あきらめないから！（涙を拭いながら去る）

そこに不良Aが現れる。

不良A なあ和也、少し気分転換が必要なんじゃないか？ 今夜、合コンがあるんだ。お前も来ないか？

和也 合コン？ 俺が？ 悪いがそんな気分じゃないんだ。

不良A おいおい、いつまでもメソメソしてもしようがねえぞ。新しい出会いがあるかもしれないし、気分転換にもなるさ。

美咲 そうして和也は合コンに行くことになります。一方桜子も合コンの人数合わせに呼ばれます。

あかりが現れる。あかりは桜子と同じく身なりを整えている。

桜子 (困惑して) 合コン……？

あかり ね、お願い。人数足りなくなっちゃって。桜子がいてくれたらすごく助かる。

美咲 彼女の名前は岩瀬あかり。桜子の中学からの同級生。二人は親友で、桜子はあるが困っているなら力になりたいと思っています。

桜子 (笑顔で) 分かったわ。あかりがそこまで言うなら……行ってみる。

あかり ありがとう。

美咲 そして二人は合コンで、運命的な出会いをします。

桜子、和也に出会う。見つめ合う二人。恋の予感が走る。音楽。

櫻庭 合コンって運命的な出会いですかね？？

美咲 (構わず) 合コンを抜け出す二人。

和也、桜子の手を引いて走り出す。笑い合う。

桜子 あー、こんなに思いつきり走ったの久しぶり！

和也 ごめんな。抜け出そうなんていつて。俺、強引だったよな。

桜子 ううん。平気っ。

和也 初めて会ったのに、ずっと前から知ってるような気がするんだ。(桜子に近づく)

美咲　そしてなんと、桜子と和也は、幼いころに出会っていたことを知ります。
一年に一度、七夕祭りの夜に。

桜子　まさか、和也くんがあのとときの男の子だったなんて。

和也　俺たち毎年会ってたんだな。

桜子　運命って言ったら大げさかな。

和也　大げさじゃねえよ。

和也、桜子を抱き寄せる。主題歌が流れる。

桜子　（私達、織姫と彦星みたいだね。会えなかった時間はきっと雨が降っていたんだ。）

音楽止まる。

美咲　とまあ、こういう感じで進んでいきます。

櫻庭　……な、るほどー！

美咲　大体雰囲気は分かってもらえたんじゃないかなと思いますが、

櫻庭　そ、うですね、はい。

美咲　ついてこれてますか？

櫻庭　大丈夫です。……まああの、ヒロインのモノログにすんなり乗れるっていう方と

乗れないっていう方が分かれたりはするかなと思いますけど、

美咲　そうですね。

櫻庭　まあでもそれも、ケータイ小説の特色なんですよ。

美咲　仰る通りです。あの、まあやっぱり、こう、ケータイ小説っていうのが、

「携帯電話のプラットフォームで自分で連載をはじめて、編集者とかの手が入らない状態で書かれたもの」ですので、そういう、ストーリー作りのお作法、みたいなのが、ない、というか、違う、というのが、特色ですよ。

櫻庭　なるほど。まあでも癖は強い気はしますが、全然王道のラブストーリーですよ。

美咲　そうですね。ここまではほんと、よくある王道のラブストーリーなんですけど、こ

こからがケータイ小説の本領発揮といえますか、

櫻庭　本領発揮……？

美咲　（語気強く）ここから怒涛の悲劇の連続です。

櫻庭　えー！

美咲　ケータイ小説には「ケータイ小説7つの大罪」と呼ばれるものがありまして、

櫻庭　ケータイ小説7つの大罪……？

美咲　売春・性暴力・妊娠・薬物・不治の病・自殺・真実の愛、この7つの大罪らしいん

ですけど、

櫻庭 えっぐいですね。

美咲 他にも色んな説ありまして。ちなみにこの作品は、売春、性暴力、事故死、妊娠、流産、薬物、DV、真実の愛の8つの大罪でお送りしています。

櫻庭 多くないですか。

美咲 (遮って)そういうわけで、ここからは大罪を中心に説明して行ければと思います。

8つの大罪その一、性暴力です。

櫻庭 いきなり？

美咲 和也の元カノ、小雪は和也が桜子と付き合い始めたことを知り、激しく嫉妬します。

小雪が現れる。

小雪 きいー、何よあの女、和也の事なんか何も知らないくせに。

あんな子が和也のそばにいてなんて、許せない。(周りを見て) ねえ、あんたたち、あの桜子って女に痛い目みせてやんな。

桜子、男たちに囲まれる。

桜子 (後ずさりながら) あなたたち、だれなの、いや、やめてー。きゃー。

櫻庭 (隠すようなジェスチャーで) ちょっとちよつと！ え、これ地上波ですよね！?

美咲 土曜日夜8時から放映していました。

櫻庭 子どもも見える時間じゃないですか。

美咲 むしろこれ、ターゲットは女子中高生ですからね。

櫻庭 えー。

美咲 でも流行ってたんですよ、この頃は、そういう若年層に向けた過激な作品が。『家なき子』、『プラトニックセックス』、『池袋ウエストゲートパーク』、ティーン向けのドラマが過激だったんですよ。

櫻庭 確かにあの時代、テレビ業界は全体的に無法地帯でしたもんね。

美咲 次に行きましょう、8つの大罪その二、ドラッグです。

櫻庭 おー。

美咲 桜子の父親は和也との交際に反対し、二人を別れさせます。ショックを受けた和也は……。

和也

もう何も感じたくない。何も考えたくないんだ。(薬を飲み込む) これで少しは楽になれるか。もっと苦しむだけかもしれないな。

でも、そんなことはもうどうでもいい。桜子、お前の居ない世界なんて！

櫻庭

いやいや、和也、そんな場合ですか、彼女が性被害にあった直後ですよ。自分を可哀そうがっている場合じゃないんじゃないですか。そして、ここでドラッグの必要ありますか？

美咲

櫻庭さん、これがケータイ小説です。

櫻庭

これがケータイ小説かあ……。

美咲

次に行きましょう。8つの大罪その三、事故死！

櫻庭

え、死ぬんすか、

美咲

桜子と別れ、薬物中毒になっている和也でしたが、それはそれとして桜子を乱暴した犯人を捜します。そしてついに、元凶は小雪だということが判明します！

和也

お前、桜子がどれだけ苦しんでるのか分かってるのか！

小雪

知らないわよ。あたしそんなの知らない。和也が全部いけないのよ。和也の馬鹿！

小雪、走り出す。

和也

ちょ、まてよ！

和也も追いかける。

小雪

やめて、こないで！

和也

おい、だめだ、小雪、危ない！！

周りの人 ああ、車が……！！

車のブレーキの音。

バーン、っと大きな音がして、舞台上の人たちは全員倒れる。しばらくして、舞台奥から、リカが現れる。

リカ

えっと、こんにちは、藤井リカです。

43歳で、独身なんですけど、子どもがひとりいます。もう高校生です。九州に住んでいて、友だちと3人でシェアハウスしています。

わたしも含めて3人ともシングルマザーで、大人が3人、子どもが4人っていう、7人で住んでいて、大家族です。

若い時、22歳くらいの時に、ケータイ小説っていうのが流行ってて、知ってますかね。趣味で小説を書いて、そのケータイ小説のサイトに投稿していたんですけど、「あまこい」っていうんですけど、結構ヒットして、書籍化して、ドラマ化もして、一躍時の人となりました。

へへへ。

今度ドラマあまこいの主題歌を元にした月9ドラマがはじまるんですけど、その関係者のパーティーみたいなのに、呼ばれたんです。わたしも。

それで、すごい久しぶりに東京に行くことになったんですけど、荷造りしながらYouTubeとかみてたら、ちょうどその月9ドラマの関連動画とか出てきて、そしたらそれに当時の「あまこい」のドラマ脚本家の杉原さんが出てて、

美咲、櫻庭起き上がり、話しながら椅子に座りにいく。

リカは荷造りをしながら、二人の会話を見ている。

美咲　いかがですか、ここまで。

櫻庭　怒涛の展開でびっくりしてます。

美咲　わかりますわかります。びっくりしますよね。わたしもびっくりしました。

櫻庭　え、びっくりしたんですか。

美咲　びっくりしましたよ。

リカ　びっくりしたんですけど、なんかめっちゃデイスってたんですよ。『あまこい』の原作を。

美咲　ケータイ小説って、まず横書きなんですよ。そして、極端に文字数が少なくて、改行がすごく多いんです。スッカスカなんです。

櫻庭　おお。

美咲　状況描写と心理描写が浅すぎるし、ポエムが内容がなさすぎるし、登場人物たちが短絡的だし、極端なイベントばかり起きるんですよ。

リカ　まあ、たしかに当時も色々批判はあったんですけどね。とくに「文学」が好きな人たちからは受け入れられませんでした。

美咲

わたしが大学で学んできた文学や、脚本家になるために勉強してきた脚本術は一体なんだったんだって思いましたよね。

リカ

わかりますよ。素人なんで、単純に下手ですしね。文章が。
でも問題は、（笑顔で）その作品が、売れたことだと思いまーす！

美咲

（少しうつむいて）だって、めちゃくちゃ売れたんですよ。そういう本が。

リカ

いやー、売れましたねー。

美咲

本屋さんでも棚にずらっと並んで、1位、2位、3位、がケータイ小説って年もありました。

リカ

そしてバッシングされました。すごく。

美咲

おかしいだろうって思いましたよね。

リカ

わかりますけどね。自分より下とか劣っているとか侮っている、そういう相手が評価されてるのってムカつくじゃないですか。

美咲

宮部みゆきと村上春樹と東野圭吾を押さえて上位独占はありえんでしょ！

リカ

ムカつくんだろうなーと思って。

美咲

なんでだー……。

リカ

いい気分。（うつとりとする）

わたしは別に家は居心地いい場所でもなかったんですけど、学校に行けば友達もいたし、彼氏もいたし、本読むより楽しいこととか色々あるじゃないですか。
家に本なんて一冊もなかったし、もちろん図書館にいればいくらでもあったんですけど、図書館なんていくの、一部の陰キャだけじゃないですか。

美咲

わたし、図書館が一番好きだったんですけど、

リカ

わたしの読者は日頃本を読んだりしてない中高生女子たちでした。わたしと同じ

ように。

その人数が、全国全年齢層の陰キヤたちより多かったです。その子らが本屋さん
に押し寄せて、そして売り上げを塗り替えていったんだから、怖かったと思います。
小説をすぎだったひとたちは。

美咲 もう文学っていうものは終わってしまったのかな、と思いましたよね。

リカ 文学なんてものはとくに終わってたんですけど、みとめられないですよ。
なかなか現実って。

とはいえそのケータイ小説も、今は下火になっていて、わたしももう書いてはな
いんですけど。諸行無常ですね。

櫻庭 いやー、杉原さんも、色んなお気持ちを抱えながらやっておられたんですね。

リカ わたしだって色んな気持ちにはなるんです。今観るとやばいなってところあるん
ですよ、まあ特に、後半は、後半は結構やばくて、ヒロインと、塾の先生との恋
愛とかになるんで、娘がこんなことになったら困るってマジでおもうんですけど、

佐伯、登場。スーツ姿。大学生くらいにも見えるし、中年にも見えるし、年齢はよく分
からない風貌だが、生徒にとって先生はみんな「大人」だ。

佐伯 桜子、よく話してくれた。辛かったな。でも君は一人じゃない。僕は君を守るため
にできることを全力でやるよ。僕は君のために戦うから、君も一緒に頑張ろう。

桜子 先生……。

佐伯 今日は車で送るよ。ちょっと待っててくれ。

桜子 ありがとうございます。

佐伯、ゆっくりと桜子に近づいていき、手を掴む。

櫻庭 え、あれ。

美咲 は、やば、やばい。

桜子 え？

佐伯、桜子を抱き寄せ、主題歌が流れる。

櫻庭・美咲　わー！

リカ　（抱き合う佐伯と桜子に慌てながら）でも当時はね！　そういうのもね、良いと思
ってたんです。ていうかいっぱいあったんですよ。先生と生徒の恋愛ものが、『高
校教師』とか『魔女の条件』とか、観てたんです。かくゆうわたしも、先生を好き
だった時期とありましたしね。まあなんにもなかったんですけど、でも同級生で
先生と付き合ってた子もいて、羨ましいなーって思っていました。

美咲　その後、ひそかに佐伯先生に想いを寄せていた岩瀬あかりは、先生の気持ち桜子

に向いていることにショックを受け、ドラッグや売春を始めるわけですが……。

客　はい、これ。

客　あかりに2万円渡す。あかり、それを受けとる。

客　また頼むよ。

客　去る。

あかり　わたし、どうしてこんなことになったんだろう。最初はただ、少しでも楽になりたか
っただけ。佐伯先生が桜子ばかり気にかけるのが耐えられなくて、全部が嫌になっ
た。だけど、薬に手を出してから、何もかもが崩れていった。

わたしはただの抜け殻。何も感じたくない。何も考えたくない。薬の効果が切れる
たびに、現実が襲いかかってくる。それを避けるために、また薬を求める。
それがわたしの今の全て。

あかりは薬を飲み込み、再び現実から逃避する。

櫻庭　そんな……。

リカ　結局先生と付き合うことになる桜子は、妊娠してDVされて流産するっていう結
構酷い状況になるんですけど、

佐伯　（桜子を殴り）何度言ったら分かるんだ！　お前は何もできないくせに！

桜子　ごめんなさい、先生……。桜子が悪かったから、

佐伯　（再び殴り）この！

桜子 やめて！ あ、ああ、お腹の子が……！

櫻庭 （狼狽えて）こ、ここまでする必要があります？

リカ でも酷いことがいっぱい起きるのが大切なんですよ。数々の酷い出来事は、愛を確かなものにするための試練なんです。ここまで色んな事があったからこそ、ラストシーンが生きるんです。

美咲 ラストシーン、最後の大罪は「真実の愛」です。

音楽。花火の音。

美咲 小川町では合併反対運動が激化し、井川市との小競り合いが抗争に発展してしま
う。そんな祭りの夜、桜子は傷ついた心で和也と再会します。花火をバックに、昔
出会っていた、天川の橋の上で。

和也 桜子……？ こんなところで何してるんだ。

桜子 和也……もう全てが嫌になったの。助けて……

和也 桜子、もう大丈夫だ。俺が守るから、一緒に逃げよう。

桜子と和也は手を取り合い、抗争の混乱を逃れて駆け落ちする。

桜子 （織姫と彦星、離れたままでいればよかったのかもしれないね。出会わなければ、
涙も知らずに済んだかな。ずっと雨が降っていれば、心の痛みも知らずに済んだか
もしれない。でも、私達は出会ってしまった。運命に導かれ、またこの手を取り合っ
た。どんな未来が待っているかどうか分からないけれど、和也とならどこへでも行
ける。これが桜子の新しい始まり）

美咲 （大仰に）これが、ドラマあまこいの全貌となります。

リカ どんな辛いことがあっても愛し合える。酷いことばかりの世の中だけど、真実の愛
だけが全てから救ってくれる。

櫻庭 これがケータイ小説か。

リカ それがケータイ小説なんです。

櫻庭 あの、……はじめてこういう、自分が触れていなかった世界に触れて、結構衝撃を

うけているんですけど、

美咲 そうですよ、わかります。

櫻庭 ちなみに杉原さんは、この原作を脚本化するにあたって、難しかったところとか、

大変だったところとかってというのはどのあたりになりますか？

美咲 そうですね、とにかくリアリティを感じるのが難しいというか。

リカ よくね、リアリティがないなんていわれましたが、これにリアリティを感じないひとたちは初めから読者として想定していませんのでお引き取り下さい、と思いましたし、

美咲 少女の暗い願望というか、歪んだ妄想というか、そういうもので作られているわけですよ、これは。

リカ 少女の妄想とか現実逃避とか言われましたけど、妄想、必要じゃないですか。妄想こそ生きていくために必要な救済だし、いま流行りの異世界転生なんてほぼほぼ全部現実逃避じゃないですか。

美咲 ただわたしは大学で日本文学を学んでいましたから、元々文豪の小説とかの方が親和性が高かったんです。

リカ (失笑) 文豪の小説なんて大体おじさんの妄想じゃないですか。わたしも作家って呼ばれるようになったんでね、ちょっとは勉強しましたよ。読まなかった本も読みました。よみましたけど

美咲 賞に選んで頂いた作品も、谷崎潤一郎、森鷗外、川端康成の影響を強く受けて書いたドラマ脚本でしたしね。

リカ 谷崎潤一郎「痴人の愛」、森鷗外「舞姫」、川端康成「雪国」、全部おじさんの妄想じゃないですか？

でも女の子はおじさんの妄想では救われませんよ。

そして、東京を舞台にした純愛トレンディドラマでも、地方の女の子たちは救われません。

地方都市を舞台にした、身近で起こる数々の悲劇と真実の愛の物語でしか救われない女の子たちがいるんです。

……まあ、そう思って書いたわけじゃないですけど、沢山の感想のメッセージを読
んで、そうなんだなっておもいました。

ケータイ小説の書籍は、そもそもは地方で爆売れしたそうです。

なのでまあ、都会の文学少女だった杉原さんは、ケータイ小説の読者層ではなかつ
たんだと思うんですけど、……でも大切に思ってくれる読者もいるので、そんな公
にデイスらないで欲しいんですよ。読者が、傷ついちゃうっていうか、ドラマを
楽しんで観てくれた視聴者にも失礼じゃないですか、普通に。

東京のパーティー会場。ざわざわしており、業界人や記者などの姿も見える。豪華な料
理が用意されているほか、ウェイターがお酒の入ったグラスを持ってウロウロしてい
る。美咲とリカが向き合う。

美咲 え、いやいや、そんな、デイスってないですよ。

リカ いやいや、デイスってたじゃないですか。わたしは大学で文学を勉強してたのに、
ケータイ小説のドラマなんかを書かされてって。

美咲 言ってますん言ってますん。ケータイ小説のドラマなんて、とか言ってるんです
よ。

リカ でもそういうニュアンスだったじゃないですか。あのYouTube。

美咲 違いますよ。あの、全然勉強してきたことや得意分野が違うのに、若い女性はケー
タイ小説好きで書けるでしょっていう感じで、雑にくくられたのが、しんどかった
って話ですよ。

リカ 一緒にされたくないってことでしょ。

美咲 一緒にじゃないじゃないですか。藤井さんとわたしは。

リカ ……まあ、

美咲 共通点ありますか？

リカ ない、です。

美咲 ですよね。だから、女だからって雑にくくらないでほしいって言っただけですよ？

リカ (不服そうに) そうですか……。

美咲 そうです。……まあでもちよっと、全体的に、調子にのって、喋っちゃったところ
はあると思いますので、その、嫌な思いをさせたんだったら、すみませんでした。
いえ、

美咲 あの、でもほんとに、ケータイ小説を馬鹿にとかはしてなくて、ドラマ脚本書かせ
てもらってよかったなとおもってますし、

リカ はあ。

美咲 最初はやっぱり、極端なイベントが多いのでびっくりはしたんですけど、でもそれ

が全て「真実の愛」のための伏線だっていうことも腑におちてますし、
 リカ （嬉しそうに）その「真実の愛」を見つけることさえできれば、すべての辛い出来
 事がキャンセルされて救済されるっていう！
 美咲 （前のめりに）そういう信仰を描いた少女たちのバイブルなんだっていうことは、
 わたしも理解して取り組んだつもりです！
 リカ ありがとうございますっ！（美咲の手を取る）

間。

美咲 ……ただ、最近おもうんですけど、
 リカ はい。
 美咲 見つけられないこともあるじゃないですか……。
 リカ え？
 美咲 それを信じた少女たちが、真実の愛を見つけれないまま大人になっちゃったら
 どうしたらいいんですかね。
 リカ それは、
 美咲 あ、（ふらついて）すみません、ちょっと、よっぱらっちゃかな。
 リカ いや、あの、揺れてます。
 美咲 え、
 リカ 結構大きいかも、
 美咲 ああ、

二人、その場にしゃがむ。地震はおさまったようだ。

美咲 おさまりました、かね、
 リカ 多分、

会場の人たち あー、シャンデリアが！！
 リカ・美咲 え。

シャンデリアの落ちる音とともに、暗転。

『あまこい』主題歌が流れる。

舞台が、明るくなり、曲に合わせたダンス。

曲の途中、あかりがリカと、小雪が美咲と入れ替わる。
 曲の一番が終わると、リカと美咲を残して退場する。

第二話

高校生の制服を着た、美咲とリカがいる。

リカはお嬢様高校といった着こなして、美咲は短いスカートとルーズソックス。

リカ （美咲の姿をみて）え、

美咲 （リカの姿をみて）え、どうしたんですか。

リカ （そっちこそ）いや、

相手のリアクションをうけて、自分をみて、

リカ・美咲 え、

お互いに大変びっくりして、

リカ・美咲 えー！？

音楽。突然ポエムが流れる。

桜子 （七夕の夜、星が輝く空を見上げるたび、織姫と彦星の物語を思い出すよ。）

困惑する二人。

リカ なにこれなにこれ。

美咲 怖い怖い怖い、

桜子 （和也と桜子も、遠い星のように違う学校で離れているけれど、こうして会える瞬間が私達の七夕だね。）

美咲 あ、でもこれは、

リカ え

美咲 覚えがあるような。

リカ 確かに。

美咲 ドラマあまこいのモノローグ？

リカ 向こうから、じゃない？

美咲　そうですね。ちょっと、みてきます。

美咲、去る

リカ　え、ちょっと、まってまって、

リカ、追いかける。

桜子　（でも、最近は和也の元カノの影が私達の星空を曇らせている。

和也に話して、この曇りを晴らしたい。

だけど、和也はどう思うんだろう。

風に揺れる短冊のように、いまはまだ、桜子の心も揺れているんだ……。）

『あまこい』の世界。

和也と桜子の笑い声。二人は学校の帰り道、川辺を歩いている。

和也　なあ桜子、今日学校どうだった？

桜子　うん、まあまあ、かな。明日、あかりとジャスコに行く約束してるから、何見るとか、計画してた。和也は？

和也　俺もまあまあ。（川に石を投げて水切りをしながら）ていうか、授業なんて聞いてねえけどな。（桜子を見つめ）おまえに会いたくて、学校早く終わんねえかなーって思ってた。

桜子　（ドキッとした表情で）桜子も！

和也　……（すました顔で再び水切りをしている）。

桜子　（少し表情が曇り）……ねえ和也。

和也　ん？

桜子　（おおげさに石を蹴飛ばして）やっぱりなんでもないっ。

和也　なんだよ。

桜子　いや、

和也　（深刻そうに）……何かあったのか？　おい、顔色悪いぞ。

桜子　（顔を隠して）……。

和也　桜子。こっちみろよ。なにがあっただんだ。

桜子　和也。実は……和也に言わなきゃいけないことがあるの。

和也　なんだよ。

桜子　和也の元カノの小雪さん？　っていたでしょ

和也　ああ、小雪がどうかしたのか。

桜子 小雪さんから嫌がらせをされてるの。

和也 (驚いて) 小雪が!? 一体何をされたんだ。

桜子 (状況を再現しながら) 学校の近くで待ち伏せされたり、帰り道に怖いメッセージが書かれた紙を渡されたり……。

和也 なんてこった。……小雪が本当にそんなことをしてるなんて。桜子ごめん、俺がもっと早く気づいていれば!

桜子 和也のせいじゃないよ。でも、どうしたらいいか分からなくて、ずっと悩んだの。

桜子の手をしっかりと握る和也。

和也 桜子、おまえがそんなことで苦しむのは絶対に許せない。すぐに何とかする。俺が話をつけるから、心配すんなよ。(去ろうとする)

桜子 (手を握って引き留めようとする) でも、和也が巻き込まれるのも心配だよ。小雪さんは和也のことをまだ好きなんじゃないかって……。

和也 (桜子をじっと見つめ) もう過去のことだ。今は桜子が大切なんだ。お前を守るためなら、何でもする。

桜子 ありがとう、和也。

和也、桜子をそっと抱きしめる。

和也 一緒に乗り越えよう。桜子、お前は一人じゃないから。

桜子 うん、和也がいてくれるなら、桜子、何でも乗り越えられる気がする。

和也、桜子から身体を離し、

和也 俺、今すぐ小雪にガツンと言ってくる。もうこんなことはさせない。

桜子 でも、和也……危険じゃない?

和也 大丈夫だ。俺に任せとけ。何かあったらすぐに連絡しろよ。(去る)

桜子 (和也へ手を伸ばそうとして) ああっ……。

そこに美咲が現れる。

美咲 あ、

桜子 (驚いて) 小雪さん……!!

美咲 こゆきさん?

桜子 次は桜子をどうするつもり!?

美咲 どうするつもり?

桜子 どんなに嫌がらせされたって、和也のことは渡さないから。

美咲 和也?

桜子 (和也に全てを話したことで、少しだけ心が軽くなった気がしたよ。でも、その直後に小雪さんと再び遭遇するなんて、運命は本当に残酷だ。)

美咲 あ、あ、でた。

桜子 小雪さん、桜子に言いたいことがあるんだったら、正々堂々言ったらどう。

美咲 あまこいの、主演の、上野翼さん、にしては、めちゃくちゃに若い……。

そこにリカ。へとへと。

リカ まって、はいいよ。

美咲 藤井さん。

リカ 杉原さん、

桜子 あかり!?

美咲・リカ え。

桜子 小雪さん、あかりになにするつもり?

美咲 いや、

桜子 (美咲を守るようにして) あかりは関係ないんだから、手をださないで。あかり、大丈夫?

リカ あかり……?

桜子 あのひとつ、前に話した。和也の元カノ。小雪さん。

リカ こゆきさん……?

美咲 杉原です。

リカ あまこいの、主演の、上野翼さん、にしては、めちゃくちゃに若い……。

美咲 そうなの。

桜子 小雪さん、桜子、あなたにされたこと、和也に話した。和也、凄く怒ってた。あなたと話すって。お願いだから、もう私達に構わないで。

美咲 うーん、

桜子 あかり、一緒に帰ろう。

リカ (困って) いやー……。

桜子 どうしたの?

リカ (美咲へ近づき) と、ともだちに、なったの、わたしたち。

桜子 え!?

リカ ね、

美咲 え、あ、うん、そう。

桜子 え!?

リカ だから、先に帰ってて。

桜子 そんな、でも、

リカ 大丈夫だから。話すことあるの。こゆき、さんに。

桜子 ほんとに大丈夫なの……?

リカ うん。ほんとに大丈夫だから。先にいって。

桜子 わかった。でも、何かあったら、すぐ連絡してね。

リカ うん。あ、あの、今って西暦何年だっけ?

桜子 2004年だけど。

リカ ……だよね。

桜子 え?

リカ なんでもない。じゃあ。

桜子 うん。きをつけてね。

リカ うん。

桜子、去る。

美咲 えっと、これは、……どう思います?

リカ まあこれは、あれだよ。ドラマの世界に、転生したってことじゃない。

美咲 え。あの、……もう一回言ってもらっていいですか。

リカ だから、私達、ドラマあまこいの世界に転生しちゃったみたい。

美咲 えー。

リカ わかんないよ。わかんないけど、

美咲 いやでも、そうですよね、わかんないけど、

リカ そうなんじゃない、わかんないけど。

美咲 わかんないけど、わたしもそんな気がします。

リカ さっきの、あまこいの主人公の桜子でしょ。

美咲 上野さん、じゃないですよ。

リカ じゃない、んじゃない? すっごい若かったし。

美咲 すっごい若かったですね。

リカ で、たぶん、(自分が)桜子の友達の岩瀬あかりで、

美咲 (自分が)柴咲小雪です。桜子の彼氏の元カノです。

リカ なんでこんなことになっちゃったんだろう……。

美咲　なんでなんですかね……。

リカ　んー……。 (考え込む。突如声色が変わって)　今日は、塾。

美咲　え。

リカ　宿題ちゃんとやってきたんだ。勉強がんばってたら、佐伯先生、ほめてくれるかな。

美咲　どうしたんですか!?

リカ　(我に返って) はっ!

美咲　え!

リカ　なんか、いま、あかりの、記憶がながれてきて。

美咲　え、そんなことできるんですか?

リカ　やってみて。

美咲　はい。んー……。 (考え込む。突如声色が変わって)

あんな女に和也は渡さないわ。今日こそ、その日が来た。放課後、桜子を通るいつもの帰り道。あの薄暗い路地で、悪い男たちが彼女を待ち伏せしている。金に困っている彼らは、あたしの計画に乗った。これで終わりよ。あんたには和也も幸せも似合わない。

リカ　ちょっと、ちょっと!

美咲　(我に返って) は!　いま小雪の記憶が。

リカ　なんか今、めちゃくちゃ物騒なことってたんだけど。

美咲　言っ、てましたよね

リカ　言ってましたよ?

美咲　なんか、小雪は凄く和也に未練があって、桜子を恨んで!

リカ　まあそれで、嫉妬のあまりに桜子を男たちに襲わせて、それを突き止めた和也に追

いかけられて事故死するっていうのが小雪の役なわけだから、

美咲　つまり、

リカ　このままいくと死にます。

美咲　えー……。

リカ　しかもいま、今日、まさに、襲わせるみたいなことってたけど。

美咲　言ってましたよね。ヤバイですよね。

リカ　ヤバイよね。

リカ、美咲、去る。

桜子が現れる。

リカ、美咲、桜子に追いつく。

リカ　桜子!

桜子　あかり、と、小雪さん、

リカ そっちは、あぶないかも！

桜子 え？

リカ ね。

美咲 うん。あの、この先の薄暗い路地、最近ちょっと、治安がわるくて。

リカ 事件とか起きてたよね。

美咲 そうそう。

リカ 危ないって。

桜子 それを言い、わざわざ？

リカ うん。だから3人でかえろう。大通りのほうから。

桜子 でも、大通りから遠回りしたら6時すぎちゃう……。

リカ なにか予定あるの？

桜子 門限が。

美咲 あー、あった門限！

リカ お嬢様キヤラ面倒くさいなあ！

美咲 あの、じゃあ和也に送ってもらえば。バイクで。

桜子 え。

美咲 桜子のためなら飛んでくるでしょ。わたしちょっと、ラインする。……ラインはまだないか。メールする。

美咲、和也にメールする

桜子 どうして。あなたは、和也のことまだ好きなんですよ。

美咲 いやー、

リカ 小雪は、和也くんのことにはあきらめるって！

桜子 え!?

リカ ね。

美咲 うん。そう。わたし、和也のことはあきらめるー。

リカ あとあやまりたいって。

桜子 え!?

リカ ね。

美咲 うん。(早口で) いままでごめん。和也がすきで、嫉妬して、意地悪してた。でももうやめるから。ごめん。

桜子

(小雪さんが謝ってきたとき、ちょっとびっくりしたんだ。でも悪い人じゃないのかもって思った。和也を好きな気持ち、桜子もよく分かるからさ。和也の優しさとか強さに惹かれるのは、桜子も同じ。和也と一緒にいることで得た強さと優しさを、

今度は桜子が小雪さんに向ける番だね。）

桜子 いいよ。（笑顔で）いままでのことは水に流すから。

美咲 ありがとう。

リカ いいの？

桜子 うん。あかりと桜子は友達になったんだよね。じゃあこれからは桜子とも友達ってことで。（美咲と握手をする）

リカ 桜子、めっちゃいい子だなあ。

桜子 ねえ明日、ジャスコ3人でいかない？

リカ あ、うん、わたしも、いいよ。

桜子 やったあ。じゃあ明日は、3人でいこう。

和也が走って現れる。

和也 小雪!? ……なんで桜子とあかりと一緒になんだ!

桜子 和也。

美咲 （この人が）かずや。

リカ （この人が）かずや。

和也 （桜子に）なんもされてねえか!

桜子 うん。大丈夫。

和也 小雪、全部きいたぞ! 桜子に嫌がらせてたんだってな。一体どういうつもりだよ!

桜子 和也、いいの、やめて。

和也 よくねえだろ!

桜子 （和也をなだめて）いいの。小雪さん、さっきちゃんと謝ってくれたの。もうしないうって、約束してくれた。（嬉しそうに美咲へ近づき）それにね、わたしたち、ともだちになったんだっ!

和也 ともだち? 桜子と小雪が? （小雪を見る）

美咲 ……うん。

桜子 （和也に近づき、手を取って）だからもう、大丈夫だよ?

和也 （深呼吸して冷静になり）桜子、お前が許すなら、俺もそれに従う。（美咲に向かつて）でも、小雪、もしもう一度桜子に何かしたら、俺が許さない。

美咲 （少し怯えながら）わ、わかった。

リカ あの、それでね、和也くん、桜子を送って行ってくれない?

和也 え。

美咲 あ、そうそう。この先、薄暗くて治安悪くて危ないから、バイクで大通りから送っ

て欲しいの。

和也 いいけど、……もしかして、そのために俺を呼んだのか。桜子のために？

美咲 うん。

和也 (何かを感じて) そうか。

リカ あの、桜子、門限厳しいから、早く行ってあげて。

和也 ああ、わかった。桜子、行こう。(桜子の手を取る)

桜子 ありがとう。あの、ふたりもわざわざありがとうね。

美咲 うん。

桜子 じゃあまた明日。

リカ うん。

桜子、和也、去る。

二人、ガッツポーズ。

美咲 え、これいけましたよね。

リカ いけたんじゃない？

美咲 小雪死亡ルート回避できましたよね。

リカ できたんじゃない。

美咲 やった！

リカ よかった！

美咲 助かったー。(ハイタッチする)

リカ おめでとう！……でもさ、

美咲 ん。

リカ わたしこれから、やばくない？

美咲 え。

リカ なんか色々あるよね、イベントが。

美咲 あかり？

リカ あかり。桜子の中学からの友達の岩瀬あかり。

美咲 塾の先生が好きなんですよね。

リカ そう。でもその塾の佐伯先生と、桜子がいい感じになって、

美咲 ああ、ああ、

リカ それにショックをうけて、

美咲 薬物中毒になって、

リカ 売春をはじめ。

美咲 うわー。(頭を抱える)

リカ (頭を抱える) え、嫌すぎる。この未来嫌すぎるんだけど。

美咲 やっぱりこう、あれですね。あらためて、ケータイ小説ってこう、イベントがえぐいですね。

リカ あー……。

美咲 えっと、え、あかりがショックを受けて、そこから薬中になるの、なんででしたっけ。

リカ えっと、ショックを受けて、偶然、薬中になってる和也に出会って、一緒に薬中になっちゃう。

美咲 えー、えっと、なんで和也は薬中になるんですしたっけ。

リカ 和也は桜子の父親に、娘と関わりたくないでくれって言われて別れさせられるんだよ。それで薬中になっちゃう。

美咲 いちいち失恋から薬物までの距離が近いんですよ！

リカ そういう、世界観だからあ！

美咲 わかりますけど！……え、あれ、桜子のお父さんが二人を別れさせるのって、桜子が乱暴された日ですよ。

リカ あ、そうだね。それで和也が送って行って、別れさせられるから、

美咲 つまり、

リカ 今日だわ。

リカ、美咲、慌てて去る。

桜子の家の前。豪邸というほどではないが、大きな一軒家で、庭も綺麗にととのえられている。

和也と桜子が到着する。

和也 桜子、無事に着いたな。よかった。

桜子 ありがとう、和也。今日は本当に助かった。

和也、桜子を抱きしめる。

そこに桜子の父、秀俊がゆっくりと現れる。

秀俊 （二人をまじまじと見ながら）お帰り、桜子。

桜子 （驚いて）パパ？

秀俊 その男の子はどなたかなあ？

和也 あの俺、和也っていいです。桜子さんとお付き合っています。

秀俊 そうか。和也君。今日はおくってくれてありがとう。だが、桜子に近づくのはやめてくれ。不良の君との交際は認められない。

桜子 (驚いて) パパ、どうしてそんなこと言うの？

和也 お父さん！

秀俊 (怒って) 君にお父さんと言われる覚えはない！

和也 桜子のお父さん、俺は桜子を守りたいと思っています。確かに俺は不良かもしれないが、俺は本気で桜子が好きなんです。

秀俊 君の気持ちは分かった。しかし、桜子にはもっとふさわしい相手がいるはずだ。君とは別れてもらう。

桜子 パパ、そんなこと言わないでください！ 和也は桜子にとってかけがえのない存在なんです！ (和也の手を握る)

和也 桜子のお父さん、どうか、少し時間をください！ 証明させてください！

秀俊 だめだ。証明などいらない。君と居たら、桜子は危ない目に遭うかもしれない。桜子のことを本気で好きなんだったら、桜子とは別れてくれたまえ。(不思議な力で固く握られた二人の手を引き離す)

和也 ……っ！

秀俊 (桜子を引き寄せて) 桜子、これがお前のためなんだ。和也くん、悪いが二度と桜子に近づかないでくれ。

和也 (悔しそうに) 分かりました。でも、桜子、俺はいつでもお前を思ってる。何かあったら、必ず助けに来る！

桜子 和也あ！ 行かないで……！

秀俊 和也くん、帰ってくれたまえ。桜子、家に入れ。

和也、去る。

桜子 和也あー………！

秀俊、桜子を強引に家に引き入れる。

美咲とリカ、現れる。

美咲 井川市まで来たね。

リカ 桜子の家までもうちよつとじゃない？

そこに桜子のモノローグが聞こえてくる。

桜子 (ねえ和也、こんなに急に別れが訪れるなんて考えてもみなかった。)

リカ えー！

桜子 (織姫と彦星みたいに引き裂かれてしまったわたしたち。)

美咲 これは。

桜子 (短冊に書いたあの日の願いは、もう叶わないのかな。)

リカ・美咲 あー……。――

桜子 (和也と一緒に観た輝く星々が、いまはとても遠くに感じる。)

リカ まにあわなかったー。

桜子 (星に願っても、和也との未来はもう見えない。)

美咲 まにあいませんでしたねー

リカ このままじゃ和也くんが葉中になっちゃう。

美咲 とりあえず、和也の家にいきましよう。

リカ うう……。

二人、去る。

第三話

和也の家。暗い部屋。散らかっており、まともに掃除されていないことが分かる。

和也、絶望している。

和也 もう何も感じたくない。何も考えたくないんだ。(葉を飲み込む) これで少しは楽になれるか。もっと苦しむだけかもしれないな。でも、そんなことはもうどうでもいい。桜子、お前の居ない世界なんて。

リカ、美咲、到着。チャイムを押しまくる。

リカ、美咲、おそろおそろ中に入る。

和也 (顔を上げて) ……小雪とあかりじゃねーか。(ふらつきながら) どうした？

美咲 キマッてますね。

リカ おそかったかー。おじゃましまーす。

美咲 これは結構、

リカ 壮絶。

和也 汚くてわりいな。俺、片付け苦手でさあ。

リカ 和也君は、どういう生活してる感じ？

美咲、元カノである小雪の記憶がよみがえる。

美咲 和也は、両親は離婚していて、お母さんとすんでるんだけど、お母さんはいつもい

なかった。あたし（小雪）も家には居場所がなくて、この汚い部屋で和也と二人でいるときだけが、あたしがあたしでいられた時間だったの。

和也 おい、ペラペラしゃべんなよ。

リカ ちよっと待って、杉原さん！ あなた（美咲）立派な両親がいたでしょ。東京育ちでいい大学出て、シナリオ大賞とって脚本家になったんでしょ。

美咲 （我に返って）は！ ……小雪の記憶が、

リカ いやいやいや。

美咲 なんか、すごい、たまらない。湧き上がる桜子への嫉妬と憎悪と殺意が、やばい。

和也 おい、いくらお前でもあいつに手だしたら、殺すからな。

美咲 （再び小雪が乗り移って）手なんか出さないよ！ あたしたち、友だちになったんだから。

リカ 杉原さん、一旦落ちつこー。（和也から引き離す）

美咲 あー。（我に返る）

リカ とにかく、和也くんには支援が必要です。

美咲 はい。それは、そうですね。そう思います。

リカ シンママかー、児童扶養手当とかちゃんともらってるかなー、生活保護って生活

立て直すのも手だと思うけど、あ、でもネグレクトの可能性は？

美咲 可能性はあると思う。

和也、うとうとする。

リカ じゃあ一旦児童相談所かなー、2004年の児相とかシエルターってどうなってるんだろ。え、どうするのが良いと思う？

美咲 あ、いやー……？

リカ ん。

美咲 すみません、ちよっと、あんまり、そういう知識が……。

リカ あ、あ、ごめん、そうだよね。
 美咲 なんか、すごいですね、慣れてらっしゃるというか、
 リカ あー、わたしシングルだからさ、
 美咲 え、そうなんですか、わたしもですけど。
 リカ え、そうなの？ シングルマザー？
 美咲 あ、いや、マザーではないですね。
 リカ え？
 美咲 独身です。
 リカ あー、シングル。
 美咲 です。……（自分に）シングル、（リカに）マザー。
 リカ そうそう。
 美咲 あ、そうなんですネ。
 リカ 今はシングルマザー3人でシェアハウスしてるんだけど、
 美咲 3人？？
 リカ 大人が3人で子供が4人で計7人で住んでて、
 美咲 多いですね。え、多くないですか。
 リカ で、まあ、みんな色々あるからさ、夫のDVで逃げてきたとか、養育費踏み倒されてるけど子どもが小さくて働けないとか、
 美咲 （感心して）はああ。
 リカ だからなんか、こういうのは慣れてる。
 美咲 すごい、心強いです。
 リカ とはいえ、ドラックについてはそんな、どうだろう、一回病院にいくしかないよね。
 和也くん、……寝てる？
 美咲 効果が切れて眠くなっちゃったんですね。エクスタシー、効果が短いから。
 リカ そうなんだ。
 美咲 あと病院は、無理だと思いますよ。和也が拒否すると思うし、保険証も持ってないかも。
 リカ あー、じゃあ警察呼ぶしかないってこと？
 美咲 いや、ドラックに関しては、たぶんダルクとかナルコティクスアノニマスとかが、
 リカ なにそれ？
 美咲 薬物依存の方のための支援団体があるんですよ。匿名で相談を受けられたりでき
 て、ダルクの方は緊急対応もしてくれるはずですよ。多分。
 リカ ……ねえまって、すごい、慣れてない？
 美咲 あー……。
 リカ なに、薬中だったの？？
 美咲 違いますよ。ドラマで、扱ってたんですよ。貧困とか薬物依存とか。

リカ あ、あー、あれ？ 『春君』??

美咲 そうです。え、みてくれてました？

リカ みてたみてたーっ！

美咲 ああ、ありがとうございます。

リカ いえいえ。

美咲 まあ、それで取材とかしたんで、知識として知ってるだけで、実践的に慣れてるってわけじゃないんですけど、

リカ なるほど。でもその団体って、2004年もある？

美咲 えー、どうだろ……。

リカと美咲、携帯で検索しようとする。

リカ あー、ガラケーだわ。

美咲 ガラケーって検索とかできるんですけどっけ。

リカ えー、わかんない。これは無理そう。

美咲 こっちも難しそうです。

リカ 2004年って調べものどうしてたっけ。

美咲 え、タウンページ？

リカ あったね、タウンページ！

美咲 あるかな、タウンページ……。

リカ (見渡して) ここから探すのは無理なんじゃ……？

美咲 うーん、なんか……公衆電話、とかにありませんでしたっけ、タウンページって。

リカ 公衆電話？ ってまだあるのかな。ケータイ普及してるのに。

美咲 いや、あ、……るはず。なんか確か公衆電話のシーンあったはず。和也の家の近所の公園にある。

リカ あ、あ、わかった。来る途中あった！ ちょっと、電話してくる。なんだっけ、そ

の会のなまえ、

美咲 ダルクです。

リカ わかった。(去る)

残される、和也と美咲。

美咲、あたりをみわたして、和也を見る。

美咲

(小声で) ごめんね、わたし、あなたのこと、こらえ性がない短絡的な不良だと思
って書いてたよ。でもこういう環境だと、勉強もままならないだろうし、小雪も、
依存的なメンヘラだし、高校生にはしんどいよな！

和也 (顔を上げて) ん……。

美咲 あ、ごめん、おこしちゃった？

和也 ああ、

美咲 水のみなよ。脱水症状おこすから。

和也 ああ。

美咲、水を持ってくる。

美咲 はい。

和也 ……さんきゅ。

間。

美咲 あのさ、和也が、わたしと別れて桜子と付き合ったのは、良かったと思う。

和也 なんだよ急に。

美咲 いやほんとにね、桜子は和也の支えになると思うし、

和也 やめろよ。もう別れたんだ。

美咲 別れるの、やめたほうがいいとおもうけど。だってそんなにボロボロになっちゃって、薬物にも手出して、ほんと、馬鹿じゃないの。馬鹿。

和也 お前喧嘩売ってんのかよ。

美咲 (必死に) 幸せになつて欲しいの！ 和也に。こんなとこ見たくないんだよ、もー。中年になると子どもが酷い目にあつてるやつとか無理なんだよー。

和也 中年？

美咲 いや、ごめん、なんでもない。ちょっと今色々混ざつて、情緒が……、いやでもとにかくね、ほんとさ、やめなよ。薬物は。今日衝動的にやっちゃっただけなら、すぐやめられるよ。

和也 (目をそらして) ……関係ねえだろ。

美咲 和也だって本当はわかつてるでしょ。このままじゃダメだつて。

和也 おまえさ、なんでそんなに俺にかまうわけ。

美咲 それはまあ、

和也 俺はもうお前の彼氏じゃないんだぜ。

美咲 まあそうだね。

和也 それに俺は、もうお前になにもしてやれねえよ。

美咲 うん。なにもなくていい。……でも和也はやさしいから、小雪になにかしてあげたいとおもったし、でもそれも、つかれちゃったんだよね。ごめんね。

和也 わかつてたんだな。ああ、俺は、お前から逃げたんだ。

美咲

あの……いや、正しいと思う。わたしの問題は、わたしがもっと、色んな人の力を借りて解決するべきだとおもうし、高校生の和也がひとりで背負い込むようなことじゃないんだよ。だから和也は和也の問題を解決しようとしてよ。色んな人の手を借りて。わたしも、手伝うから。

和也

（ぐっときて）……小雪？　なんか、……変わったな。

美咲

そう、かも、ね？

和也

大人になったっていうか。

美咲

うん。……大人なんだよ。実は。だいぶ。

和也

そっか。（笑って）俺、お前の事誤解してたかしんねえ。

美咲

誤解？

和也

桜子と付き合ってるのなんか知ったら、逆上してどうなるかわかんねえって思ってた。

美咲

あー、

和也

ごめんな。馬鹿だよな、俺。何も分かってなかった。

美咲

そんなことないんじゃない？　むしろよくわかってると思うよ。

和也

（悔しそうに）……そんなことねえよ。

美咲

実際のところ、桜子への嫉妬心はいまもすごく、湧き上がってはきいているし、

和也

小雪……!?!　お前、やっぱりまだ俺の事、

美咲

（遮って）でも！　二人には幸せになって欲しいから、より戻せばいいって思ってる。桜子のお父さんだって、桜子を心配してるだけなんだから、和也がちゃんと安心できる男になればいいんだよ。だから、そのためにさ、薬物はほんとにやめよう。

和也

（前のめりに）……お前の言う通りだよな。

美咲

（驚いて）え？

和也

俺もっと、ちゃんとするよ。これも（クスリを手にとって）、やめる！

美咲

本当!?

和也

逃げてばっかじゃだめだよな。

美咲

うん。

和也

（小雪をしっかりと見て）やり直せないか、俺たち！

美咲

（呆氣にとられて）は??

和也

今のお前となら、やっていけると思う！

美咲

いや、あの、え、桜子は??

和也

言っただろ。桜子とは別れたって。

美咲

いやでも、好きなんでしょ。運命を感じたんじゃないの??

和也

わかったんだ。俺は、お前を支えきれなかったこと、後悔してた。その罪悪感から目をそらしたくて、桜子に逃げたんだ。

美咲 あ、いやいや、いいよ。それはそれで健全だから。逃げるとかっていうか、
和也 俺はもう逃げない
美咲 逃げなよ。逃げていいよ。
和也 (近づいて) 小雪……!!

和也、美咲を抱き寄せる

美咲 わー、まってまって、だめ、ストップ。

小雪、和也から逃げる。

美咲 ストップ、ステイ！ 同意なく人の身体に接触してはいけません。

和也 俺はお前から逃げない。だからお前も、俺から逃げるなよ！

美咲 (後ずさり) どういうこと？ てか何この状況??

和也 (美咲に近づいて) 小雪はもう、俺の事嫌いかな??

美咲 いやー、(考えて、おさえていた何かを感じ) あー、好き。好きですね。すごく、
はい。

和也 じゃあ。(近づく)

美咲 (急いで逃げて) でもね、でもだめだよ！ これは絶対だめ。43歳だから！ 高

校生は、ぜったいだめ！

和也 は？

美咲 わたし無理なんだよ！ 異世界転生でおじさんが少年に転生して少女と恋愛する
やつとか、あーゆーのすごく無理なの。嫌なの！

和也 何言ってるんだよ！

美咲 何言ってるのかわかんないと思うけど、わたしは和也のことは諦めるから。桜子と幸
せになって欲しい。

和也 なんでだよ！

美咲 (絞り出すように) 桜子と友達だから。

和也 そうか……。

美咲 うん。

和也 ……でも、でも俺、

和也、美咲に壁ドン。

和也 やっぱりお前の事。

美咲 (耐えきれず) 和也、、

キスの予感。
そこにリカ。

リカ （元気よく）ただいまー。（絶句して）……え。

美咲・和也 あ。

リカ ちょっとちよつとちよつと！

美咲、和也から離れる。

リカ え、なにやってんの。

和也 いいとこだったのに。

リカ いやいやいや、（美咲に）はあ？

美咲 いや、ちがうですよ。

リカ （和也は）高校生だから。（自分が）高校生に見えてるからってやっていいことと悪いことがあるでしょ。

美咲 仰る通りです。

リカ ……どこまでやったの。

美咲 なにもしてない。未遂。

リカ ほんと？

和也 ほんとだよ。

美咲 あの、わたしも一応がんばって抗ったんだけど、ちょっと、理性が、
リカ 馬鹿あ！

和也 おい、小雪を責めんなよ。悪いのは俺だよ。

リカ ……だとしても、悪いのは小雪だよ。

美咲 そうだね。

和也 なんでだよ！

リカ 大人だから。

美咲 大人だからね。

和也 は？

リカ とにかく、緊急対応できるって。

美咲 ほんと？ いけはいってことですか

リカ うん。

美咲 和也、クスリ、やめるんだよね。

和也 ああ、やめる。

美咲 やめることを手伝ってくれるところがあるから、一緒にいこう。

和也 ……警察ってこと？

リカ 警察でも病院でもないよ。

美咲 薬物中毒のひとたちを助けてくれる団体があるの。あのさ、問題を全部解決してくれるような人たちはいないかもしれないけど、一緒に解決しようとしてくれる人は、案外いるからさ。私達は頼ったり助けてもらったりすることを覚えていったらいいと思う。わたしもそうするから。和也もそうして。

和也 ……小雪。わかった。（美咲に近づいて）

リカ （二人を引き離し）おー、よしよし、じゃあいこう、準備して。

おのおの、準備をはじめると、リカに電話がある。リカ、表示をみて

リカ あ、

美咲 え、

リカ 今日塾だったんだ。

美咲 あー、それは、あかりが好きな塾講師のいる塾？ ですよ

リカ うん。最終的に桜子と付き合って妊娠させてDVする塾講師のいる、塾。

美咲 さすがに最悪すぎませんか。

リカ わたしちよっと、行ってくる。

美咲 え。

リカ そもそもさ、高校生に手をだすなって、言ってくる！

美咲 おお。

リカ 大人の対応してくる。そっち、まかせた。

美咲 うん。頑張って。

リカ、電話に出る。

リカ あの、もしもし、すみません、ちよっと、あの、わすれてて、あ、でもいきます。

すみません。何時になるかは、なるべく早く、いくので、はい。はい、すみません。ちよっと、遅くなるかもしれないんですけど、

第四話

舞台変わってそこは塾。

塾講師の佐伯がいる。

佐伯 さすがに遅いよー。

リカ （にこにこして）すみませーん。

佐伯 もう授業終わったよ。

リカ すみません。

佐伯 ていうか、帰りのバスもうないんじゃない？

リカ え、あ、あー、

佐伯 もー、じゃあちよつと待ってて。保護者の方に連絡して、車で送る許可を貰うから。

リカ （ぎよつとして）えつ、

佐伯 （冷静に）夜道を歩かせるわけにいかないでしょ。

リカ （納得して）あー、すみません。

佐伯 今回は特別だからね。

リカ ありがとうございます。

佐伯の車の中。

佐伯 なにしたの、今日。

リカ あー、ちよつと、予期せぬトラブルが色々ありまして、

佐伯 へえ、まあ色々あるよな、高校生は。

リカ はい。

佐伯 勉強も大事だけどさ、

リカ はい。

佐伯 それだけじゃないしね、人生は。

リカ まあ。

佐伯 あ、ちよつと、遠回りしていい？

リカ はい。……（不審に思っ）え、あの、

佐伯 ちよつとだけだから。

リカ どこにいくんですか！

佐伯 内緒。

リカ え。

佐伯 ……着いた。

リカ （困惑して）え、もう？

佐伯 外出てみて。

リカ、外に出る。

リカ （感動して）うわー、景色があー！

佐伯 いいでしょ。ここ、俺のお気に入り。はい。(ジュースか何か渡す)

リカ え、ありがとうございます。

佐伯 息抜きも大事だからさ。

リカ はい

佐伯 あかりが頑張ってるのは、俺もよくわかってるから、たまには息抜きもするよう
に。

リカ はい。

佐伯 よし。えらいえらい。

佐伯、リカの頭をポンポンする。

佐伯 それ飲んだらいいとか。

リカ いやあの、

佐伯 え？

リカ (自分の頭を指差して) いまのは、もう、アウトでは？

佐伯 えっ？

リカ セクハラ。

佐伯 あ、

リカ 頭ポンポンとかは、

佐伯 ごめん、いやだった？？

リカ いや、嫌では全然ないんですけど、むしろ全然すぐく、よかったんですけど、
じゃあよかった。

リカ (遮って) いや、だめですよ！

佐伯 え、なんで？

リカ すきになっちゃうから！

佐伯 え？？

リカ すきになっちゃうじゃん、こんなの。特別扱いしてくれて、頑張ってる場所もみ
てくれて、車で、いい景色みせて、こんな、もう高校生からしたら、大人すぎる
し、有利すぎる。立場が。ズルすぎる！

佐伯 いやあの、え、

リカ 高校生は、まだ子どもなんだから、大人は子どもを、守ってよ！

佐伯 あ、うん、ごめん。あかりはちょっとみんなより大人っぽくてしっかりしてるから、
ついそういう配慮が足らなくなっちゃったのかもしれないんだけど、

リカ ……っだから、そういうのよ。そういうところよ。

佐伯 ええ？

リカ みんなより、大人っぽいとかやめて。大人に大人扱いされると嬉しいから、喜んで

やうんだよー、子どもなんだからさー、
あ、ああ、うん。

佐伯 リカ 先生なんだから、好きにさせないで。先生のこと好きにさせないでよ！
佐伯 あ、もしかしてなんだけど。

リカ なに？

佐伯 俺、告られてる？

リカ （そういわれてみれば）あー……。え、違う？

佐伯 いや、違うはない、かもしれないけど、

佐伯 俺を好きってこと？

リカ それは……（ためらいながらも）そう、です。

佐伯 嬉しいよ。

リカ 喜ばないで！

佐伯 え。

リカ 女子高生に告白されて喜ばないで！ 困って！ 迷惑がって！

佐伯 迷惑なんかじゃないよ。

リカ 迷惑なんですよ！

佐伯 なんて!?

リカ 女子高生との恋愛なんて法的にも倫理的にも問題があって社会的立場も危うくなるからですよ。そういう要因を仕事現場に持ち込まれるだけで迷惑じゃないですか。

佐伯 （感心して）あかりはそんな風に考えてたのかあ。

リカ 先生もそんな風に考えてください。

佐伯 俺は、あかりの気持ちが真剣なんだったら、俺はそれを真剣に受け止めたと思うってる。それは先生とか生徒とか以前に当たり前だと思うけど。

リカ あー、もー……

佐伯 え？

リカ （駆け回って）嬉しいー！。

佐伯 あかり！

リカ 嬉しいと思っちゃダメなのに、すごい嬉しいー！。やばいー！。

佐伯 あ、ありがとうな。俺の心配までしてくれて。でも俺は大丈夫だから。お前とのこと、真剣に考えてみるよ。

リカ いや、だから、真剣に考えないでください。わたしは先生が真剣に考えていいような相手じゃないんですよ。

佐伯 あかり！ そんな風に自分を卑下しちゃだめだ。

リカ や、卑下とかじゃないんですよ。

佐伯 真剣に考えなくていいとか、遊びでいいとか、言うなよ。

リカ そんなこと言っていないですよ。

佐伯 わかった！ お前の気持ち受け止める。……あかり、付き合おう。

リカ あー……、すぎー……。

佐伯 あかり。

リカ でも殺したいー……。

佐伯 え？？

リカ 娘の塾にこんな先生いたら、殺したすぎる……、絶対殺す。

佐伯 俺だって、生徒と付き合うのが世間的にだめだってことは分かってるよ。でも大事なのは世間じゃない。1番大事なのはお互いの気持ちだろ。

リカ 違います。一番大事なのは、子どもの安全です。

佐伯 そ、それは、そうかもしれないけど。だけど。でも俺たちの気持ちだって、大事だろ。お互いに思い合ってるのに。

リカ 思い合って、ないです。

佐伯 え!?

リカ わたしと先生は全然対等じゃないから気持ちの同意が成立しません。

佐伯 (困惑して) ……気持ちの同意？

リカ (近づいてこないように手で制止しながら) 先生は、わたしの気持ちを尊重して受け止めて受け入れるように見せながら、子どもの未熟さや保護の必要性を無視してる。それは先生がやつちやいけないことなんです。だって先生は色々信頼されて先生をやってるんだから。生徒とか保護者とか塾とかに信頼されて先生なんだから、それでお金貰ってるんだから、生徒と付き合うなんて信頼の濫用ですよ。

佐伯 ……。(何も言えない)

リカ あかりちゃん、先生のこと好きなんです。凄く。だからちゃんと好きでいさせてください。尊敬できる大人でいてください。子どもを性的対象にしないでください。付き合って、妊娠させたり、殴って流産させたりしないでください。そもそも避妊してください。

佐伯 いや、え、……誰の話？

リカ 先生の話ですよ！

……ていうね、という感じだった。

第五話

佐伯、居なくなっている。

美咲がいる。

それは次の日、土曜日の午後。ジャスコのフードコートになっている。

美咲 おおおお、おつかれさまー！。

リカ なんとか耐え抜いたし、言ってやった。大人の対応、した。

美咲 えらい！

リカ そっちは？

美咲 和也も、サポート受けつつ、なんとか更生プログラムを受けることになりました。

リカ おお、よかったー。

美咲 続くかどうかは分からないけど、

リカ いや、こういうのはまず支援に繋がることが大事だから。

美咲 そうですね。確かに。

リカ 大人の対応、できてる？

美咲 はいっ！

リカ よかったー。

美咲 これで一旦目的は達成ですかね。

リカ 目的？

美咲 あかりが薬物中毒になって売春するルートの回避。

リカ 回避、できたかな？

美咲 じゃないですか？ あかりに薬を渡す予定の和也は更生プログラムをうけて薬物

依存から抜け出そうとしてるし、

リカ うんうん。

美咲 桜子といい感じになる予定の先生にはガツンと言ってやったと。

リカ いってやった。

美咲 いけたんじゃないですか。

リカ え、いけたかな。いけたのかも。やったー。

美咲 (ジュースで) 乾杯しましょう。

リカ 乾杯しよ！。

美咲・リカ 乾杯！

ふたり、ジュースを飲む。

リカ あー、ビール飲みたい。

美咲 ビール、飲みたいですね。

リカ え、ビール派？

美咲 ビール派。でもビール太るから、最近是最初だけにして、あとはハイボールとかに
してるけど、ビール派、です。

リカ わかる……。めちゃくちゃ分かる。

美咲 話してるとどんどん飲みたくなっちゃいますね。

リカ (立ち上がるうとして) もう飲んじゃう？

美咲 (リカを止めて) だめですよ。

リカ この時代は大丈夫じゃなかった？

美咲 どの時代も高校生が制服きてフードコートでお酒飲んで大丈夫な世界線はないとおもいますけどね？

リカ えー、あー、戻りたい。

美咲 あ、そうそう、どうやったら元に戻れるかってことなんですけど！

リカ うん。え、これ戻れるの？

美咲 わっかんないですけど。でも結構、ありますよね、物語の中に入っちゃう話って。あるね。

美咲 で、戻ってくるじゃないですか。

リカ 戻ってくるよね。

美咲 あれ、どうやって戻ってるんだっけって考えたんですけど、うんうん。

美咲 よくあるのは、物語を完結させたら戻れる、っていうやつじゃないかなと。

リカ あー、あ、そうかも。「ナルニア国物語」とか、そうだよね。

美咲 そうですそうです。「ハリー・ポッターと秘密の部屋」とかもそうなんです。

リカ たしかに。え、じゃあさ、「あまこい」の物語を完結させれば元に戻れるってこと？

美咲 可能性は、あるとおもいます。

リカ 「あまこい」の物語の完結って、

美咲 桜子と和也がくつつくことじゃないですかね。

リカ そうだよねー。

そこに桜子。

桜子 (溜息) ……ごめんね、遅れて。

リカ ううん。大丈夫。

美咲 うん。全然、

リカ ところで桜子、和也くんとはどう？

桜子 え？

リカ うまくいってる？

桜子 ……そのことなんだけど、実は桜子ね、和也と別れたんだ。

美咲 (大げさに) え、そうなのー？

リカ (大げさに) なんでなんでー？

桜子 パパが和也に、「君は不良だから別れろお！」って。

リカ えーひっどい！

美咲 そんなのってないよー！

リカ パパのいうことなんかきくことないんじゃない？

美咲 そうだよー。ふたりは運命の恋なんだからあ！

桜子 でも！

リカ 桜子、わたしたち、応援するよ。

美咲 そうだよ。ふたりには、しあわせになってほしいっ！

桜子 ふたりとも、ありがとう。（二人のもとへ駆け寄る）

リカ ううん。わたしたち、ともだちでしょ。（桜子の手を取る）

美咲 そうだよ！

桜子 うん。（二人から離れて、表情が暗くなる）……でもね、パパが言うなら、しかたがないのかなって。

リカ・美咲 え？

桜子 パパにはね、桜子にとって何が大切で何が大切じゃないか分かるんだって。でも桜子は馬鹿だからわからないんだって……。

リカ （ちよっと引いて）えー、それは、パパが言ったの。桜子は馬鹿だって？

桜子 うん。だから桜子の彼氏はパパがみつけてくるんだって。

リカ それは、よくないよ。パパよくない！

美咲 うん。娘にバカとかいう父親だめだよ。

桜子 でも！

リカ 桜子、飲み物かっておいでよ。

桜子 え？

リカ パパのせいで和也のことあきらめることないよ。どうやったら、和也とうまくいか、作戦会議しよう。

美咲 わたしたちも協力するから！

桜子 ありがとう。（笑顔が戻る）

桜子、去る。

リカ え、パパ完全にモラハラじゃない？

美咲 そうですよ。そんな設定ありましたっけ。

リカ ないよ、設定してないよ。えー、でもそうだったのかな。

美咲 え？

リカ 考えてみたらさ、桜子、父親に敬語使うし、門限早いし、父親の言うこと何でも聞くじゃん。モラハラされてるからだとしたらさ、納得できない？

美咲 や、でもそんなこといったらお嬢様キャラが全員モラハラされてるってことになるませんか？

リカ 全員モラハラされてんじゃない？

美咲 そんな。

リカ だってさ、お父様にお敬語使う系のお嬢様のお家って、なんていうの、考え方が古臭いじゃん。

美咲 確かに、伝統と重んじる格式高い家っていうのは前時代的な価値観が前提となっ
てはいるとおもいますけど、

リカ そういう家ってなんか男が偉そうじゃん。

美咲 確かに、そういう家は家父長制で、父親や長男が権威をもって、女性や子供は従属
的な立場に置かれることが多いかもしれないですけど、

リカ そういうさ、家でいちばん偉いって椅子に座って子どもに敬語使わせる父親なん
てさ、もう十中八九モラハラ野郎じゃない？

美咲 確かに、……そうですね。

リカ そうでしょ。

美咲 そうですね。そう思います。

リカ モラハラかー。モラハラ手ごわいんだよなあ。シェアハウスにもいるんだよ。モラ
夫から逃げて来たマザーがさ。

美咲 あの、わたしも昔彼氏にモラハラされてたんですけど、
え。

美咲 解決方法が、逃げる一択なんですよね。物理的に距離をとらないと、すぐとりこま
れちゃうから。

リカ そうだよな。

美咲 桜子も、モラパパと暮らしてる限り、和也とはうまくいかないですね。

リカ えー、でもだからってどうする？

美咲 桜子を保護するっていうのはどうですか。それこそシェルターとか児童相談所と
か。

リカ あ、それ調べただけどさ、児童シェルター、まだほぼない。

美咲 えっ。

リカ 今年2004年によくできたところだった。1件。東京に。

美咲 えー。

リカ 児相はあるみたいだけど、でも保護までは無理じゃないかなー。殴られてるならと
もかく、モラハラはなー、どうかなー、うーん……。

桜子が戻ってくる。

桜子 お待たせ。

美咲 おかえり。あ、ちょっと椅子もってくる！

桜子 え。

美咲 あっちにあったから。ちょっとまってて。

桜子 ありがとう。

美咲、去る。

桜子 小雪さんって、いい人だね。(リカの反応がない) あかり？

リカ (声色が変わって) 桜子は、プールに入らない。

桜子 え!?

リカ 桜子の身体にあざがあること、知ってた。体育の着替えの時、みえちゃったんだ。

桜子 ……知ってたの？

美咲、椅子をもつて戻ってくる。

リカ 桜子が隠してる体のあざ、きつと、お父さんからの暴力だろうってわかった。でもずっと、知らないふりをしていたんだ。どうしていいかわからなかったから。本当は、力になりたいって思ってたのに。

美咲 ちょっと、

リカ (我に返って) はっ！

桜子 あかり、そんな風におもってくれたの。だまってごめんね。そう。桜子、パパから暴力をうける。

美咲・リカ え……。

桜子 パパは桜子が悪いっていうの。でも、桜子もう叩かれるのはいや。家に帰るのが怖い。本当は、和也とも別れたくない。

美咲 桜子がそう思ってるなら話は早い、よね。

リカ うん。桜子、わたしたち、桜子が家を出るべきだって思ってる。

桜子 家？

リカ パパと一緒に住んでたら、和也とは一緒にいられないでしょ。

桜子 でも、桜子、いくところなんて……。

リカ 暴力をうけている子供を保護してくれるところがあつてね、児童相談所っていうんだけど、

美咲 そこにいくのはどうかなって。

リカ 桜子が家を出るつもりなら、とりあえずそこに電話だけでもしちゃうと思うんだけど、どう？

桜子 （葛藤に苦しみながら）でも……。

美咲 和也もきつと、桜子が幸せになることを望んでる！ と、思う！

リカ 愛を貫くためにも、今こそ家を出るべきだよ！

桜子 （吹っ切れたように）わかった！ 桜子、家を出る！ 和也と一緒に幸せになるために！

リカ じゃあ、電話するね。（携帯電話を取り出す）

桜子 うんっ！

（電話をかける）……もしもし、あの、友だちが、父親から暴力を受けているんです。はい。それで、すぐに保護してほしいんですけど、……え、あー、そうなんです。（強く）なんとかならないですか!? （小声になり）……そうですよね。わかりました。じゃあ、また、月曜日に連絡します。はい。

美咲 なんて？

リカ 土曜日だから、対応してないって。

美咲 えー。

リカ 緊急な場合は警察に連絡しろって。

美咲 えー。

リカ 2004年って感じだね。

美咲 2004年ってそんな感じか。

桜子 桜子は、一体どうしたらいいの？

美咲 うーん、とりあえず、うちくる？

桜子・リカ え。

第六話

小雪の家。

割と整理整頓されているが、部屋の隅には片付け切れなかった衣類や小物が押し込まれているようにも見える。中央には使用感のあるソファが置いてある。

美咲 いらっしゃーい。

リカ・桜子 おじゃまします。

美咲 ちらかってごめんね。

リカ いやいや、きれいにしてるじゃん！

美咲 ほんと？ 最初がひどくてさ、だいぶ片づけたんだけど。

リカ そうなんだ。

美咲 （二人を案内して）座って座って。なんかしばらく誰もいないみたいだから、もう

気楽にして。あとでコンビニいこ。

美咲は話しながらクッションや、椅子を準備している。

桜子 ママは？

美咲 ママはねー、結構前に出て行つたみたい。

リカ そうなんだ。

桜子 パパは？

美咲 パパもねー、なんか最近かえってきてないみたい。

リカ え、そうなんだ……。

美咲 うん。

桜子 あの、じゃあ小雪さん、家でひとりなの？

美咲 うん。最近はそうみたい。(二人にクッションを渡す)

リカ へえ。

美咲 だから、とりあえず週末はここで過ごして、月曜日に兎相に連絡するっていうのは
どうかな。

桜子 うん。ありがとう。

リカ (ソファアールから少し離れた椅子に座って) ていうか、小雪こそ兎相いったほうがい
いんじゃない。

美咲 まあね。

リカ 和也くん家よりネグレクトじゃない？

美咲 そうなんだよね。

桜子 和也？

リカ いや、あの、和也くんはさ、知ってるの。桜子が暴力にあってるって。

桜子 (真ん中に座る) うん。俺が守るって言ってくれたんだ。わかれちゃったけど。

リカ 和也くん……。

美咲 (呆れて) 和也は、そういうところ、あるよね。(桜子の隣に座る)

桜子 小雪さんも言われたの？

美咲 うん、まあ。

リカ え、それどうなん？ 和也くんどうなん？

美咲 いや、別に悪いやつじゃないのよ。そういう守ってあげよう、という気持ちは本当
だと思う。

桜子 でも桜子はね、そもそも和也から守ってあげたいとか言われるのはあんまり嬉し
くなくて。

リカ おおー。

桜子 だって和也って別に何の力もないじゃない。権力もないしお金もないし、地位も名

誉も将来性もないじゃない。桜子の方が偏差値高いし、家は裕福だし、親は権力があるわけじゃない。だから、何からどうやって桜子を守ってくれるつもりなのかな、って思ってた。

リカ いきなりめちゃくちゃ正論言うじゃん。

美咲 全くもってそのとおりですね。

桜子 守るとか、無理なんだし、求めてないし。桜子は、守ってほしかったんじゃないから、傍にいてほしかった。話をきいてほしかったし、和也と一緒にいたかった。

美咲 （凄く刺さって）わかる……。

リカ わかるわー。

美咲 わたしより年収低いのに守りたいって言ってきた男に言ってやりたい。

リカ わたしも、元旦那、妻子を守るてきなことを言うわりには育児全然できないから、子どもを全然守れてないし、産後でボロボロのわたしに家事育児任せきりでそれって全然わたしの事守れてないじゃんって思った

桜子 （困惑して）え、え？

美咲 あ、ごめん、今桜子の話してたのに。

リカ 桜子があんまりいいこと言うからすごいささっちゃって、ごめん。（桜子の隣に座って、肩を寄せる）

三人、笑う。

桜子 ううん。なんか、わかってくれて、うれしい。

リカ なんかさ、「守りたい」って結局「支配したい」の言い換えだったりするときあるよね。

美咲 支配じゃなくて対等なコミュニケーションとケアをできるようになってほしい。

リカ ほんとだよ。

桜子 ふたりともさ、なんか、え、大人みたいだね。

リカ 大人なんだ。実は結構。

美咲 うん。

桜子 でも桜子も、そう思う。支配じゃなくて、

美咲・桜子 （桜子が美咲の言葉を追うように）対等なコミュニケーションとケア。

桜子 桜子もそうして欲しかった。

リカ うん。

チャイムの音。遠くから秀俊の声が聞こえる。

秀俊 こんにちは。いらっしやいますか。

桜子 （驚いて）え？ パパ？

リカ うそ、なんで

美咲 桜子、奥にいつて。

リカ なんてわかったんだろう。

チャイムの音。桜子、去る。

秀俊 すみませーん。

美咲 はーい。

リカ いくの？

美咲 うん。ちゃんと追い返そう。ヤバかったら通報して。

リカ わかった。

そこはリビング。リカ、美咲、秀俊がいる。

秀俊 すみません、うちの娘がご迷惑をおかけして。

美咲 あー。

秀俊 桜子の父です。桜子を迎えに来ました。あなたが柴崎小雪さん。

美咲 はい。

秀俊 桜子から聞いてます。新しいお友達だつて。

リカ あー、え、なんで桜子がここにいてるってわかったんですか？

秀俊 あかりちゃん、今日は新しいお友達に会うっていうもんだから、ちょっと、心配で。後をつけてきたってことですか？

秀俊 最近よくない男の子と付き合ってたんだからね。もしかしたら、私に嘘をついて、その子と会ってるんじゃないかと思って。

美咲 桜子は、お父さんに嘘をつくような子じゃありませんよ。

秀俊 そうですね。まったく、その通りです。（笑う）やあ、お恥ずかしい。まあでも今日はね、もうそろそろ門限ですので、連れて帰ろうと思います。連れてきてもらえますか。

美咲 （リカと顔を見合わせ）桜子は帰りたくないんだそうです。

秀俊 桜子が、言ったんですか？

美咲 はい。

秀俊 おかしいな。桜子がそんなこというわけない。私がいうのもなんですけど、桜子はどうしてもいい子なんです。門限だつて破ったことない。急に帰りたくないなんて言うわけがない。奥の部屋を見させてもらっていいかな。（立ち上がる）

美咲 （引き留めて）やー、だめです、不法侵入です、警察よびますよ？

秀俊 小雪ちゃん、だっけ。面白いこと言うね。

美咲 電話して。

リカ わかった。（去る）

秀俊 私が不法侵入だというなら、小雪ちゃんは誘拐犯かな。

美咲 ……。

秀俊 ……わかった。話をききましょう。私は娘を迎えに来た父親。不審者でもなんでもない。あかりちゃんとも面識がある。なぜ連れて帰っちゃいけないんですか。

美咲 桜子が帰りたくないって言ってるんですよ。

秀俊 （遮って）仮にそれが本当だとして、それが迎えに来た父親を追い返せる理由になると思いますか。本当に？ ……子どもはね、しばしば家に帰りたくないとかいうもんですよ。それでもね、親が迎えにきたら、帰るんですよ。当り前ですよ。帰りたくないって言うてるからって、警察よぶだの、不法侵入だの、まかり通るわけがない。君も高校生なんだからそれくらいわかるだろ。桜子を呼んできてくれたまえ。そしたら上がらずに帰る。（声が大きくなり）桜子を渡さないんだったら、部屋に入らせてもらう。

美咲 （怯んで）大きな声をださないでください

秀俊 ああ、申し訳ない。悪かったね。娘のこととなると、つい。心配なんですよ。どの親もそうでしょうけどね。あなたも親になったら分かりますよ。

リカ、戻ってきて、

リカ わたしは、親になってもあなたみたいになりません。

秀俊 あかりちゃん？

リカ さつきから話を聞こうと言っておきながら、ずっと喋ってますよね。家でもそんなんですか。

秀俊 え？

リカ 家でもそんな風に、一方的にしゃべって決めつけて、気に入らないことがあったら怒鳴って殴りつけるんですかね。

秀俊 なにか誤解してるみたいだけど、なんだろ。桜子に何か言われたのかな？

リカ 言われたらマズいことでもあるんですか。

秀俊 逆だよ。まったく思い当たらない。見当もつかない。（小雪に）君か？ 君がそのかしたのか？ ん？ なんて言ったか教えてもらえないかな。桜子は染まりやすいんだ。だから、大事に育てて来たんだよ。それを、こんなところでそのかされて悪い色に染められたらたまらない。

桜子、飛び出してくる。

桜子　パパ！

秀俊　桜子！

桜子　（怯えながら）友だちを、悪く言うのはやめてください。

秀俊　悪くなんて言っていない。

桜子　悪い色っていいました。

秀俊　それは、小雪ちゃんが悪い色だって言ってるわけじゃない。桜子が、小雪ちゃんといると、悪い色になってしまってるって言ったんだ。

桜子　……どうして、悪い色になってしまってるんですか。

秀俊　相性が悪いからだよ。小雪ちゃんと桜子は、合わないんだ。いい悪いってはないじゃない。合わないもの同士が無理して一緒にいると、どちらかが、濁ってしまう。そしてそのどちらかは、お前なんだ！　わかるか、桜子。お前は染まりやすい。だからお前は友達をえらばないといけない。小雪ちゃんとは、友達になれないんだ。……。

秀俊　わかったね。さあ、かえるんだ。

リカ　やー、すごい、このひと、めちゃくちゃいうなあ。

美咲　こういう言い方するんだよね。わかっている。覚えがある。自分は頭が良くて正しくて、相手は馬鹿だとおもってるんだよ。

秀俊　おもってませんよ。なんなんですか。

美咲　（桜子に近寄り）ねえ桜子。桜子は高校生だから、躰けをされるのは仕方ないっておもってるかもしれないけど、高校生じゃなくなって、大人になっても、私達の前にはこういう態度の人たちが現れつつけて、私達を躰けようとしてくるんだよ。

秀俊　頭がおかしいんじゃないのか？

美咲　頭がおかしいのはわたしじゃなくてあんただ！　……そう思うのに、どれだけ時間がかかることか。いまだって、本当にはそう思いきれない。

秀俊　つきあっていられない。桜子、帰るぞ。

桜子　桜子は、かえりません。

秀俊　なんだと、

美咲　桜子は、もうあなたの暴力にもう耐えられないそうです。

秀俊　暴力なんてふるってませんよ。失敬だな。

リカ　わたし、知ってます。桜子にはたくさん痣があります。

秀俊　あれは躰けですよ。愛のムチです。暴力なんかじゃない。

リカ　暴力ですよ。

美咲　暴力です。

秀俊　子どもがひとの家庭の事情に口をはさむんじゃない。君たちにそんな権利はない

はずだ。わきまえたまえ。

美咲 いや、普通にありますよ。ね。

秀俊 はあ？

まあ、権利っていうか、義務があります。児童虐待防止法によって、児童虐待を発見したものは、速やかに市町村、都道府県、または児童相談所に通告することが義務付けられています。

美咲 ちなみに既に警察も呼んでいますし、児童相談所とも連携しています。

秀俊 警察だって!?

美咲 ここは井川市の管轄外の小川町です。あなたの権力は通用しません。

リカ 今ここで問題を起こせば、次の選挙にも響くんじゃないですか。

秀俊 この私を脅すつもりかね！ 子供の癖に生意気な。大人のような口をきくんじゃない。

リカ うるせー！ 同い年だよ！ たぶん！

美咲 しっ。

秀俊 ん？

美咲 ……わたしたちは、問題をおこしたいわけじゃない。今日は帰りたくないという桜子を少しの間泊めてあげただけなんです。

リカ どうか今日は帰っていただけませんか。

秀俊 ……いいだろう。だが、これで終わりじゃないぞ。

秀俊、去る。

リカ う、わー、よかった、かえってくれて。

美咲 よかったですね。

桜子 ありがとう、二人とも。

リカ いや、桜子もめっちゃがんばった。

美咲 ほんとほんと。ちよつと一旦休憩しよ。

桜子 (暗闇の中で見つけた光。今、自由を手にしたんだ。

これから、自分の人生を歩いていくよ。

小雪、あかり、あなたたちの手が、桜子を救って、未来への道を示してくれたんだ。

そして、和也 ようやくあなたと一緒にになれる。

パパの影から抜け出して 私達の未来が始まる。)

チャイムの音。

緊張が走る。

美咲 え、だれだろ。ちょっと、まっててね。

美咲、玄関へいく。

美咲の声 え、和也？

和也の声 桜子いるか？

美咲の声 いるけど。

和也の声 あがるぜ。

美咲の声 ちょっとまって。

リビングに和也が現れる。

追いかけて美咲が来る。

和也 桜子！

桜子 （嬉しそうに）和也！

リカ 和也君？

美咲 ちょっと、え、なに

和也 桜子からメールがあっただんだ。小雪の家にいるって。それで俺、

桜子 和也、心配してきてくれたんだね。ありがとう。でも大丈夫だよ。小雪さんとは本当に仲良くなったの。

和也 そうか。

桜子 それでね和也。桜子、家を出ることにしたの。

和也 え。

桜子 もうパパの言うことなんか関係ない。だから和也、私達、これから二人で一緒にいられるよ。もう誰にも邪魔されない。

和也 桜子、

桜子 和也、

和也 ごめん、俺、お前に言わなきゃいけないことがあって……。

桜子 なぁに、どうしたの？

和也 正直に言うよ。俺、小雪とヨリが戻ったんだ。

桜子・リカ・美咲 え!?

美咲 戻ってない戻ってない！ え、戻ってないよ！

和也 え、でも、俺のこと好きだって！

美咲 言っ……た……！ かもしれないけど、

リカ 杉原さん!?

美咲 (リカに) 違うんだって。でもちゃんと、断ったから。(和也に) え、言ったよね。無理だって。

和也 ああ。だけど、最後には受け入れてくれたって思ってた!

美咲 受け入れてない。受け入れてないよ! わたしは、桜子と和也の幸せを願ってるから、だから、和也と付き合うつもりはないの。ほんとに!

和也 でも俺、自分の気持ちに嘘はつけねえよ。こんな気持ちのまま、桜子と付き合うなんてできない。

桜子 和也、どうして。私達、やっと一緒にいられると思ったのに……。

和也 桜子、本当にごめん。でも、今の気持ちに正直でいたいんだ。

桜子 そんな、桜子……和也の居ない世界なんて。

桜子は玄関のドアを開けて外に飛び出して行く。

和也 桜子!

桜子が出て行くと同時に大きめの地震が起こる。

リカ え、なに、地震?

美咲 結構おっかしい。

桜子 (ねえ和也、桜子にとって和也は世界の全てだったよ。だから。

この恋が叶わないなら、それはもう世界のおわり。)

リカ ええ。

桜子 (壊れてしまえばいい 砕け散った桜子の心みたいに。消えてしまえばいい 愛も希望も苦しみも痛みも。)

美咲 これは……。

桜子 (桜子もあなたも世界もすべて、もう全部おわりにしよう。)

リカ なんか、ヤバいんじゃない?

美咲 うん。

美咲、リカ、飛び出していく。

和也 え、おい！（追いかける）

第七話

そこは外。世界は暗く、地面は所々ひび割れていて、いつもと違う風景に驚く。
リカ、美咲、空を見上げて、

リカ なにこれ。

美咲 世界が崩壊しかかってる？

リカ なに、なんで？

美咲 桜子がふられたから、ですかね。

リカ ええ？

美咲 二人の恋が消滅しようとしているからというか、

リカ たしかにこの世界は、桜子と和也の恋愛のために作られた世界ではあるけど、

美咲 その恋愛が消滅しようとしていることによって、世界が崩壊しようとしてるんじゃないですか。

やないですか。

リカ もし、もしさ、世界が崩壊した場合さ、わたしたち、どうなると思う。

美咲 一緒に崩壊しちゃうんじゃないですかね。

リカ えー。

美咲 とにかく桜子さがしましょう。

リカ うん。

二人、探しに行く。

和也 お、おれも探すよ！

三人はばらばらに走り回って探している。

美咲 桜子、桜子！

リカ ねえ桜子、どこにいったの？

和也 おい桜子！ どこだ！

三人、同じ場所に戻ってくる。

美咲 いなかった。

リカ こっちも。

和也 もしかしたらおれと出会ったところかと思って電話したけど、いなかった。

美咲 出会ったところって？

和也 (自信満々に) 合コンのお店！

美咲 いや、違うでしょ！

和也 え!?

美咲 出会ってたんでしょ、天川の橋で。

和也 あ……。

リカ そこだと思う、たぶん。

三人、ふらつく。

リカ てかほんと、やば。

美咲 早く見つけないと。

リカ でもたどり着くまでにもう、崩壊するんじゃ、これ。

美咲 あー！。

車の音。佐伯が通りかかる。

佐伯 どうしたの、帰らないと危ないよ。

リカ あ、先生、いいところに、ちよつと、乗せていてください。

佐伯 え、え？

リカ はやく！

佐伯 う、うん、わかった！

三人、車に乗り込む。助手席にリカ、後方座席に美咲、和也が座る。

佐伯 どのうちからいく？

リカ いや家じゃなくて、天川の橋まで。

佐伯 え？

美咲 いいから、お願いします。桜子が、大変なんです。

佐伯 桜子が？ わかんないけど、わかった。ちゃんとシートベルト締めてね。

出発する。

美咲　ねえ、和也。

和也　ん。

美咲　桜子と寄り戻してよ。

和也　おれは、お前が好きなんだ。

美咲　桜子のことも好きでしょ。

和也　いや……いや、お前が、

美咲　桜子には和也しかいないし、和也には桜子しかいないんだよ。

和也　でもよ……違うことも、あるじゃねえか。

美咲　え？

和也　おれだって、さいしょ小雪と付き合ってたとき、「ぜってえ一生おれが守る」って

思ってた。でも、桜子に出会って、「ぜってえ一生おれが守る」って思った。それ

からやっぱり小雪のことを「ぜってえ一生おれが守りてえ」って思ったんだよ。

その守りたいってのやめなよ。何から守るの。

美咲　男なんてそんなもんだよ。

佐伯　先生ちよつとうるさいです。

リカ　ごめんなさい……。

和也　こいつしかいねえって思っても、そうじゃないこともあるだろうって……。

リカ　まーねー、たしかに、それはそうなんだよね。

和也　だろ！

美咲　藤井さん？

リカ　だって、永遠の愛を誓って夫婦になっても、そうじゃなかったってこともあるわけ

だからさ、すっごくよくあるわけだからさ。

美咲　でも、そんなこと言ったらこの世界どうなっちゃうんですか。

リカ　この世界？

美咲　真実の愛をみつけることですべての不幸から救われるっていう、そういう世界で

すよね、この世界は。

リカ　そうなんだけど、でも和也君がその状態じゃ無理じゃない？　和也君、もうぜった

い桜子の運命の恋人じゃないじゃん。

美咲　そうかもしれないですけど。

リカ　先生ってわけにもいかないし。

先生　え、俺が何？

リカ　なんでもないです。

美咲　え、でもじゃあどうするんですか。

リカ　だからもう、真実の愛は諦めて、なんか他のルート考える方が良いと思うんだよね。
美咲　他のルート？

リカ　なんか、恋愛だけが全てじゃない。これから楽しいことが沢山あるよ、みたいな。
美咲　それはでも、え、いいんですか？

リカ　え？

美咲　そんなこといつちゃったらもう、この世界観全否定になりますけど。

リカ　まあでもこれ20年前のはなしだからさ。

美咲　そうですけど……。

リカ　むしろさ、杉原さんは、今まで作ってきたドラマの世界を全部肯定できる？

美咲　それは……そんなことないですけど。

リカ　昔自分を救った物語が、いつまでも自分を救ってくれる？

美咲　それも、そんなことないですけど……。

佐伯　昔好きだった漫画とか、大人になってから読むと全然だったりすることあるよね。
和也　でも俺、いまだにアンパンマン好きっすよ。

リカ　（少し困って）う、うん。だからさ、良いと思うんだよ。こういう、こてこての恋愛モノも流行らなくなってきたけどさ、それもいいことだと思うし。

美咲　そうですか……。

リカ　だって少女向けのエンタメがさ、変わってきたってことじゃん。月9だって恋愛モノはヒットしなくなって、デイズニーだって、男女の純愛はメインテーマじゃなくなってきた。それは恋愛以外の素敵で重要なことが色々あるよっていうそういう世界になって来たってことでしょ。

和也、うとうとして、いつの間にか寝てしまう。

美咲　でも、いままで真実の愛の物語に救われてきた女の子たちはどうするんですか。

リカ　やー、それでもさ……ほんとに救ってたのかな

美咲　え？

リカ　救ってたつもりで、むしろ呪ってたのかも。

美咲　どういふことですか？

リカ　だって、桜子が和也との恋を世界の全てだって思ってるの、控えめに言って不幸じゃん。桜子の世界には恋以外にも素敵な素晴らしいものが沢山あってもいいのにさ。真実の愛だけが自分を救ってくれる、なんて呪いだよ！

美咲　（困惑して）ちょっと、え、まっってください、なんかすごい、いきなりめちゃうちゃ割り切ってるじゃないですか。

リカ　え？

美咲　おいていかれてるんですけど。

リカ 何に？

美咲 物語の展開に？ いつのまにか、わたしの方が、この物語に囚われてるっていうか。

リカ この物語？

美咲 真実の愛をさがしてまして、

リカ え？

美咲 婚活中なんです。

リカ え、そうなの。リアルで？

美咲 はい。

リカ それは、べつに、いいんじゃない？

美咲 いやでも、のろわれてる、ようなきがします。

リカ なんです。

美咲 わたし、いま仕事が順調なんですけど、

リカ うん。

美咲 お金も稼いでて、健康で、友だちもいて、推しもいて、毎日すごく楽しいんですけど。

リカ めっちゃいいじゃん。

美咲 めっちゃいいんです。一人暮らしも、全然寂しくないし、快適なんです。お気に入りの部屋で一人で過ごすの最高なんです。誰かと住みたくないんです。

リカ 全然結婚しなくていいじゃん。

美咲 全然結婚しなくていいんです。でも結婚、したいんです。

リカ なんでよ！

美咲 呪われてるからですよ。わたしも周りも。結婚しないと心配されるし幸せそうって思われないんです。幸せそうって思われないってすごく、不幸なんですよ。

リカ 結婚だけが幸せじゃないよお。

美咲 結婚だけが幸せじゃないって、結婚してから言ってみたい。

リカ 呪われてるね。

美咲 そうなんです。二人はずっと幸せに暮らしたとき、めでたしめでたし、から抜け出せないんです。どうしても。

リカ でもわかる。わたしも全然そうだったもん。

美咲 そうなんですか？

リカ めでたしめでたしするつもりで、結婚したもん。離婚したけど。

佐伯 (困惑)

美咲 なるほど。

リカ それでマザーたちと暮らして思ったんだけど、男女の恋愛から家族になるって、い

まいちデザインとしてよくないっていうか、完璧じゃないっていうか。なんかもっと色々あったらいいのになって。

美咲 恋愛して結婚して家族になるのが当たり前、って考え方、なんか、ありましたよね。言い方が。

リカ え、そうなの？

美咲 そうです。なんていうんでしたっけそういうの。あー、

佐伯 ロマンティック・ラブイデオロギー。

美咲 それです。よく知ってますね。

リカ ロマンティック・ラブイデオロギー？

佐伯 恋愛して結婚するのが一番いいよねっていう。

リカ それさ、私達がつくってきたロマンティック・ラブストーリーとだいたい同じやつじゃない？

美咲 ……たしかに。え？　じゃあ、私達はロマンティック・ラブストーリーを作って来たつもりでロマンティック・ラブイデオロギーを強化してきたってことですか。

リカ だとしたら、やっぱり呪いだよねー。

美咲 もしかして、それから桜子を救わないとなんじゃないですかね。

リカ え……？

美咲 わたしたち、いままでその、8つの大罪を回避？　解決？　クリア？　しようとしてきたわけじゃないですか。

リカ 8つの大罪、

美咲 売春、性暴力、事故死、妊娠、流産、薬物、DV、

リカ 残りの一個は、

美咲 真実の愛。

リカ、美咲、目を合わせる。

佐伯 （何かに気づいて）あ、……桜子？

リカ え、ほんとだ。

和也 桜子。

美咲 あれ、やばくないですか。

リカ あ、やばいやばい。危ない。

和也 桜子！

リカ 先生急いで！

佐伯 わかった！

車、
去る。

最終話

天川の橋。川は荒れ、空はひび割れ、地面は崩れ、星々は赤く染まっている。

桜子が現れ、欄干に登っていく。

桜子

桜子と、和也が、出会ってた、場所……。

出会わなきゃ、よかったんだよね。出会わなきゃこんな悲しい気持ちにならなかったんだよね。和也、和也、和也……！　なんでなんでどうして、だってねえ運命だって言ったじゃない。

四人出てきて、遠くから桜子を見ている。

桜子は絶望した少女のようであり、そして世界を滅ぼそうとする魔王のようでもある。

桜子

運命が運命じゃなかったらもう無理だよ。和也がいらない世界なんて、桜子もう無理。生きていけない。こんな世界、壊れてしまえばいい。

桜子を感じてるこの悲しみも、この苦しみも……すべてを世界に返してやる。桜子は、もう、誰にも支配されない。誰にも傷つけられない。桜子の痛みを、この世界に知らしめる！

覚えておいて。桜子を傷つけたすべてのものたち。桜子の絶望が、世界を襲うだろう。桜子の涙が、世界を呪うだろう。この世界に、もう一度光が差すことはない。

リカ

……なんか、桜子、闇落ちしてない？

美咲

完全に闇落ちしてますね。

佐伯

もういまにも飛び降りそうじゃん、助けにいかないと。

和也、前に飛び出す。

和也

桜子！

桜子

和也。

和也

俺ー、お前のことがー、嫌いになったわけじゃねえんだー。

リカ

え、何

美咲

未成年の主張？

和也

ただー、気づいちゃったただけなんだー。

今ー、本当に好きなのはー、小雪だってー。
桜子 死ね、くそがー！

桜子、闇の力で和也を追い返す。
世界の崩壊の速度が上がる。

美咲 世界の崩壊が激しくなってきたんだけど！
リカ 逆効果じゃん！
美咲 戻って戻って！

和也、戻る。佐伯、いく。

佐伯 桜子！
桜子 先生！
佐伯 俺はー、あかりがすぎだー！
皆 えー！ー！？
佐伯 だけど桜子ー！俺はー、お前もー、可愛いと思ってるぞー！
全員 ……最低ー！ー！！

桜子、闇の力で佐伯を追い返す。
世界がさらに崩壊する。

佐伯 だめだった。
リカ 何しに行っただんですか！

桜子 もー！ どの時もいつも他の女の子の話しやがって、何なの？？ 桜子を好きな男はいないわけ？？ 桜子は、桜子だけをずっとずっと愛してくれる運命の恋人が欲しいの。もう和也じゃなくていい。和也じゃなくていいから、誰でもいいから、運命の恋人が欲しいー。（駄々をこねる子どものように暴れる）

和也 桜子……。
美咲 なんか欲望が素直になってきましたね……。
リカ 次、わたしいくー。
美咲 おお、

リカ、軽快に向かう。

リカ 桜子——！

桜子 (喜んで) あかり！

リカ 運命の恋人なんて、いませ——ん！

皆 え——！?

リカ 男に期待するのは、やめろ——！

皆 そんな——！

リカ ほんとさ、変な男と結婚するくらいなら、独身の方が100倍いいから。離婚するの大変なマザー、いっぱい見て来た。だから桜子に言いたい。男に夢見るの、もうやめよ。もう全然、恋愛だけが人生じゃないから。恋愛以外の幸せもあるから——。

桜子 そんなのいや——！

リカ、押し戻される。

桜子 桜子は運命の恋がしたいの。誰かに選ばれてたった一人の誰かになりたいの。「恋愛以外の幸せがある」とか、いいの。知らない。桜子は、恋物語のヒロインになりたいの——。

美咲 分かる……！

リカ 分かるの？ 杉原さん、これ分かるかんじ??

美咲 恋物語のヒロイン、になりたい。

リカ そう??

美咲 うん。でもわたし、いつてくる。

リカ うん。

美咲 一緒に来て！

リカ うん。

美咲、リカ、向かう。

美咲 桜子——！

桜子 小雪さん。

美咲 ……私達、未来から来たの。桜子をすくうために。

皆 え——！?

美咲 あなたは恋物語の主人公じゃないの。SFの主人公なの。未来は結構いい感じだから、世界に絶望しなくていいの——。

桜子 (きょとんとして) ……そうなの??

リカ うん。だから大丈夫。未来は結構いい感じだから、大丈夫だよー！

桜子 未来はいい感じなの？

美咲 そうだよ。

桜子 本当に？

美咲 本当だよ。

桜子 ……嘘よ！

世界の崩壊音。

桜子 世界はどんどん悪くなっていく。その酷い世界で、愛だけが桜子を救ってくれるの。

リカ 桜子。

桜子 (苦悶して)……ああ、ちがうの、力が制御できない。信じたいのに信じられない。よくなる未来を、信じられないよー。

桜子の意志に反して、世界はさらに崩壊していく。

リカ、美咲、走りだす。

崩壊していく世界のなか、石を蹴飛ばし、木々をなぎ倒し、崖を飛び越え、それでも二人は桜子のもとへ走り続ける。

リカ 桜子、信じて！ 世界は少しずつよくなっていくからー！ 恋愛だけが救済じ

ゃない！ 恋愛して、結婚して、子どもを産んだ男女二人だけが主人公じゃない世界に少しずつなっていくから！

美咲 色んな生き方や色んな幸せをそれぞれに探していける世界になっていくから！

桜子 もっと、具体的に言ってー！

リカ 結婚した男女を中心に構成される家族、だけじゃない、友だち同士でシェアハウスに住んだり、同性間のパートナーシップ制度が導入されたり、多様な家族のあり方が普及してきているんだよ！

桜子 それだけー？？

美咲 もちろん一人でいたっていい！ 一人旅や一人ディズニーを楽しむ「ソロ活」とか、アイドルやアニメのキャラクターを応援する「推し活」とか、そういう生き方も広まってる！

桜子 他にはー？？

リカ 「育児はお母さんだけの仕事だ」って考えが、普通じゃなくなっていくよ！

桜子 からのー？

美咲 職場でのセクシャルハラスメント防止対策も進んで、女性が働きやすい環境が整えられて行ってる！

桜子 もう一声ー！

リカ 医学部入試では女性受験者の点数が意図的に低くされてたんだよ！ でもそれは正されていつてる！

桜子 （少し響いた様子で）う、うー、医学部だけー??

美咲 国会議員の女性比率もどんどん増えて行ってる！ もちろん全体ではすごく低いけど、2022年の参議院選挙では女性の当選者比率が過去最高になる！ 女性が政治家を目指してもいいんだよ！

二人、桜子の近くまでたどり着く。へろへろになっている。

美咲 ……とはいえまあ、まだまだなんだけど、ほんともうまだまだではあるんだけど、でもさ。

リカ わたしは、モテ期が小学校で12人に告白されたんだよ。

美咲 いきなりなんの話ですか！

リカ でも、告白してくれなかった太田くんがずっと大好きで、運命の人だって思った。そのまま引越してなにも言えずに終わった。

美咲 え、だからなんのはなし？

リカ その後、中学で好きになった伊藤くん、すげえイケメンで笑うとくしゃっとなるところが可愛くて運命の人だって思った。

美咲 うん。

リカ 伊藤君は、クラスで一番可愛い高野さんと付き合った。

美咲 うん、どうした？ それが。

リカ 割愛するけど、その後出会った運命の人の数6人、これが本当の本当に運命の出会いと思った人と結婚し、離婚しました！！！！

リカ、拍手を強要。美咲、思わず拍手。

リカ すっごい恋愛体質だったからさ、依存もしてたし、なんにも自分で決められなくて、でも、いまシェアハウスしてるんだけど、シングルマザー3人と子ども4人で住んでるんだけど、つまり7人で住んでるんだけど、すっげーたのしいんだよ！ めちゃくちゃ大変なんだけど、気づいたら何でも自分で決められるようになってた。自分で決断できるっていうことがうれしいんだよ。

自分で、未来を決められることがさー、嬉しいんだ。

ねえ桜子、桜子に恋愛の呪いをかけたのはわたしなんだ。ごめんね。でもね、本当

に、こんな形で物語をおわりにしないでほしい。

桜子

……。

桜子、わたしも呪いにかかったひとりなの。だから桜子の気持ちよくわかるよ。藤井さんの原作よんだときは、文学的な要素なしの頭恋愛お花畑なんやねんって思ってたけど。

リカ

そんなこと思ってたの……。

美咲

女性だから恋愛モノ書けるでしょ的な雑な感じでくくられてムカついたけど、でも実際、少女漫画も月9も大好きだし、恋愛モノ、全然書けた。

リカ

ドラマ『あまこい』の脚本、良かったよ！

美咲

ありがとうございます！ わたしもそう思います。そう思いますけど、書けたのは、わたしも呪いにかかったからなんです。そして、それを再生産してた。今この世界にきて、桜子をみて、改めて思いました。

わたし、これからはもっと女性が色んな夢をもてる作品を書きたい。

（世界に向かって）純愛ものなんかかいてやるかぁー！

リカ

おー！ いーじゃん！！ たのしみいー！

美咲

わたし、仕事がすぎ。ドラマ脚本もっと書きたい。これからもバリバリ沢山書く！うんっ。

リカ

結婚はしてないんだけど、数々の運命の恋は全部ハッピーエンドにはならなかったんだけど、でも、それでも、わたしはわたしを幸せに出来てるって思う。

リカ

いいじゃん。

美咲

わたしはわたしの人生が誇らしいし、わたしのことが凄く、好き。

桜子

……いいね。

美咲

いいでしょ。

リカ

桜子だって、自分の手で桜子を幸せにできるから。

だから誰かの作ったハッピーエンドから外れても、世界を呪うことなんかないよ。世界も自分も手放さなくていい。桜子の未来は桜子が作っていくんだから。

美咲

……ねえ、未来ってどんな感じ？

桜子

平成、おわるよ

リカ

へえー！！！！

桜子

ケータイで映画見れる。

美咲

へえー！

リカ

わたしにはね、桜子とおんなじ歳の娘がいるんだ。身長がこんなでつかいんだけど、将来は消防士になるんだー！ とか、言ってるさ、

桜子

へえー！

美咲

桜子は？ どんな未来を、想像する？

リカ

どんなことだって、想像していいんだよ。

桜子、欄干から降りる。

桜子 （小声で）……買い食いしてみたい。

リカ え！ いいじゃんいいじゃん、

美咲 他には

桜子 （美咲を見て）ルーズソックスはきたい！

リカ いーじゃん。

美咲 はきなよー。

桜子 あと安室ちゃんみたいに歌って踊りたい。

リカ 安室ちゃん引退す、

美咲 ちよつと！

桜子 S M A P のコンサートいつてみたい。

リカ S M A P も解散す、

美咲 ちよつと！

桜子 オシャレなカフェとかいつてみたいし、東京、東京に行きたい。

リカ 東京かー。

美咲 楽しいよー、東京。

桜子 桜子、東京のいい大学に行きたい。

リカ いきないきなー！

桜子 パパは地元の私立に行けって言ってたけどそんなの嫌だ。

美咲 うん。

桜子 東京いって一流企業に就職して、その経験を活かして、それから……お父さんよりビッグな政治家になりたい！

リカ えー、なりなよー！

美咲 めっちゃいいじゃん。

桜子 なれるかなー！

リカ わかんないけど、目指してもいいんだよ！

桜子 でも、でもね、すてきな彼氏は、ほしいよー！

美咲 わかるー！

リカ 恋愛はしたっていいんだよー！ してもいいけど、オプションだから！ すべてじゃないから！

桜子、世界に向かって、微笑み、

桜子 和也は世界じゃない、世界のいちぶだー！！！

その瞬間、世界は少し色を変える。
和也、佐伯、現れる。

和也 お、おー？

佐伯 あれ、崩壊が

和也 おさまった……？

桜子 （笑顔で）うん。

佐伯・和也 あー、世界の破片が！

リカ・美咲 え。

世界が爆発するような音。

暗転。

主題歌が流れる。明かりがつかと、ダンスが始まる。

桜子

（未来から来た不思議な二人のおかげで桜子は生きる勇気をもったよ。
未来の風が桜子の背中を押してくれたみたいに、二人の言葉が心に響いた。
東京の大学で新しい生活を始めることができたのも、二人のおかげだね

東京はなにかと素敵でおしゃれ。

いろんな考えを持つ人たちと出会って、

桜子は自分の世界がどれだけ狭くて凝り固まっていたかを知ったんだ。

世界は広くて、果てしない。

苦しいことも悲しいこともあるけれど、

今は自分で自分の人生を思いっきり楽しんでるよ

あと、男の人は星の数ほどいて、選びたい放題です

次の同窓会が楽しみだな。）

桜子は希望のまなざしを向け、去っていく。

リカと美咲、あかりと小雪を『あまこい』の世界に返すように、さよならをする。

元の世界。パーティー会場で、リカと美咲がしゃがみこんでいる。無傷。
シャンデリアは間一髪直撃していなかった。

リカ 戻ってる。

美咲 戻ってますね。

リカ 助かった、のかな。

美咲 多分。

リカ ねえ、色々あるけどさ、とりあえずビール飲まない？
美咲 ビール、飲みましょう。

幕

「主な参考文献」

- 美嘉（2006）『恋空〜切ナイ物語〜』上・下、スタート出版
メイ（2007）『赤い糸』上・下、ゴマブックス
本田透（2008）『なぜケータイ小説は売れるのか』ソフトバンク新書
中川右介（2016）『月9 101のラブストーリー』幻冬舎新書
美嘉（2016）『恋空』10年目の真実 美嘉の歩んだ道』KADOKAWA

※「ケータイ小説七つの大罪」に関して、『なぜケータイ小説は売れるのか』が参照元だが、「レイプ」を「性暴力」と言い換えている。「レイプ」という言葉がとすればキャッチーな言葉としても扱われてしまう社会状況を鑑みて、上演においてその言葉を軽快な文脈で取り扱ってしまうことによる悪影響を避けるためである。